

**2019年度
阪神南ふるさとづくり応援事業**

事例集



兵庫県阪神南県民センター

目次

1次

	市	事業名	団体名	ページ
地域 活動 支援	尼崎市	第3回あまがさき JAMフェスティバル	AMAJAMプロジェクト	1
	尼崎市	尼崎えびす神社 てづくり市	尼崎えびす神社 てづくり市実行委員会	4
	尼崎市	大庄地区 カラス対策事業	市民運動大庄地区 推進協議会	6
	芦屋市	5・5 フェスタ2019	芦屋市子ども会連絡協議会	8
	芦屋市	芦屋写真展2019	一般社団法人 芦屋写真協会	10

2次

地域 活動 支援	尼崎市	「マルシェ & カフェ・つむぎ」事業	園田北小学校区まちづくり協議会	13
	尼崎市	Amagasaki Dance Contest	尼崎あきんど倶楽部	15
	尼崎市	次世代を担う子供達への地域の伝統行事継承事業	松原神社太鼓保存会	18
	尼崎市	こころつながる「ふわっとサロン」	NPO法人ゲートキーパー支援センター	20
	尼崎市	園田の五の市	園田中央商店街商友会	22
	尼崎市	おぞの子ども居場所づくり推進プロジェクト	おぞの子ども居場所推進委員会	25
	尼崎市	塚口寄席	塚口倶楽部	27
	尼崎市	尼海の会	特定非営利活動法人 人と自然とまちづくりと	29
	尼崎市	花火・d e ・ミーツ実行委員会 ～障がいがあってもなくても、みんなで打ち上げ	花火・d e ・ミーツ実行委員会	31
	尼崎市	森の自由研究フェス 2019	森の自由研究フェス実行委員会	33
	尼崎市	ママも赤ちゃんも楽しめるホットー息 ふれあい交流会	ママの働き方応援隊阪神東校	36
	尼崎市	高齢者見守り事業 ふれあいサロンはなみずき会	中難波婦人会	38
	西宮市	空き家対策事業	NPO法人兵庫空き家相談センター	40
	西宮市	子育て中の保護者のネットワーク構築支援事業	NPO法人日本タッチカウンセリング協会	42
	西宮市	まちなみ発見パネル展&都市景観セミナー	西宮まちなみ発見倶楽部	45
	西宮市	里中町夏祭り	西宮市里中町自治会	49

	西宮市	第45回 サマーフェスティバル・イン・越木岩	越木岩青年会	52
	西宮市	阪神南ふるさと（冬の陣）活性化応援	彩線会	54
	西宮市	第6回廣田神社浪曲寄席	西宮浪曲を楽しむ会	56
	芦屋市	高齢者のフレイル対策と居場所創出のための事業	ウエルネスサポート	58
	芦屋市	芦屋の民話を紹介するオリジナル紙芝居の制作と配布	コケッコ	61
	芦屋市	多世代がふれあい、文芸に親しむ広場づくり ・交流広場「すまいる浜風」	交流広場「すまいる浜風」運営委員会	64
地域コミュニティ 再生・活性化	芦屋市	ICTツール活用による新しい自治会運営の仕組み づくり事業	ジブンゴト協議会	66

3次

地域活動 支援	尼崎市	沖縄文化セミナー「平成のオキナワ」	NPO法人関西沖縄文化研究会	69
	尼崎市	第8回阪急武庫之荘駅前ロータリー祭り	武庫之荘水と緑のまちづくりプロジェクト実行委員会	71
	尼崎市	人つむぎ人つむぎ ～みんなで認知症について考えよう～	人つむぎ人つむぎ ～みんなで認知症について考え	74
	尼崎市	塚口南 音楽フェスタ クリスマス2019	NPO法人ええうた工房	76
	尼崎市	子育て応援隊大集合	NPO法人やんちゃんこ	78
	尼崎市	契沖顕彰短歌大会	契沖の会	80
	尼崎市	小田あばれ太鼓祭り	小田太鼓会	83
	尼崎市	小田南地域 子どもフェスタ（親子まつり）	子どもフェスタ実行委員会	85
	尼崎市	地域で取り組む「ペットと高齢者問題」プロジェクト	NPO法人C.O.N	87
	尼崎市	「魅力ある園田のまちづくり・グランドデザインの提案と実践」	園田まちづくり委員会	90
	西宮市	Listen! Look! And do it! きいて・みて・やってみよう!	全国生涯学習音楽指導員協議会 兵庫支部	97
	西宮市	おろいちで朝活! 朝マルシェ	西宮市卸売市場朝マルシェ実行委員会	99
	芦屋市	RUN伴 2019 芦屋	芦屋市介護福祉士の会	103
	芦屋市	異文化交流でつなぐ人の輪	芦屋Tioクラブ	106

事業報告書

事業名	第3回あまがさきJAMフェスティバル
団体名	AMAJAMプロジェクト
活動地域 (いずれかに○)	<p>1 ()市</p> <p>② 地域団体が所在する市域以上の広域</p> <p>(対象市町：尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市他、及び大阪府等近隣府県)</p> <p style="font-size: small;">〔活動地域とは、本事業の参加者やその活動の影響が及ぶ範囲〕</p>
事業の 目的・趣旨	<p>関西を中心に活躍中のトップクラスのミュージシャンが一同に集まり、本格的な音楽フェスティバルを開催する事で、尼崎市内はもちろん、市外、県外から音楽ファンが集まり地域に活気が溢れる。</p> <p>今年はオープニングに神戸長田の震災復興団体のスティールドラムによる演奏をお願いした。</p> <p>この団体は、阪神・淡路大震災後、被害の酷かった長田の復興を願って立ち上げた団体である。このような他の地域との交流も含め尼崎が主となって盛り上げていく。</p>
事業内容	<p>あましんアルカイクホール（中、小ホール）及び施設内カフェテリアの3会場で、総勢70名を超えるプロミュージシャンが、ジャズ、ボサノバ、ゴスペル、更にラテンミュージックと多岐に亘る演奏を実施。</p> <p>また、将来プロのジャズミュージシャンを目指す学生を支援する活動として、関西唯一の学生コンボジャズコンテストを同時開催。</p> <p>老若男女を問わず、来場いただくお客様が一日中様々なステージをお好みで楽しんでいただけるイベントとなった。</p> <p>今年は3回目で3会場に特徴をつけて、老若男女のお客様が趣向にあった会場を選べるよう工夫し、終日、どの会場も自由に行き来し、野外には軽食を用意して一日中楽しんでいただけた。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業計画	1	5	6	全体	関西を中心に活躍中のトッププロミュージシャン70余名による全20ステージの本格的な演奏をアルカイクホールエリアの近接する3会場で実施	45名	627名
				あましんアルカイクホール・オクト	オクトホールはボサノバ、ゴスペル、更にラテンミュージックやオリジナル曲まで、多岐に亘る演奏で、多くの音楽ファンの興味を惹きつけた	出演者 72名	
				アルカイクホール・ミニ	ミニホールは関西唯一の学生コンボジャズコンテストを同時開催し、将来プロのジャズミュージシャンを目指す学生を支援した。後半はジャズ中心のプロの演奏を実施した		
				カフェレストラン ブラヴォー	ブラヴォーステージはオリジナル溢れるポップスを中心とした飲食しながら楽しめるステージを実施した		
目標の達成状況	今年3年目は、目標を750名としておりましたが実績は627名でした。目標には達することが出来ませんでした。1年目470名、2年目517名と着実に知名度と人気が上がってきていることが実感できました。アンケートでは今後も是非継続を！と望む声を多数いただいております、これからも尼崎発信の定番音楽イベントとして長く継続を目指します。						
事業効果	アンケート結果（回答者数121名） 地域：尼崎市内24%、尼崎市外76%、兵庫県内66%、兵庫県外34% 年齢：60代74%、40～50代41% この結果では、若い層にはまだまだ認知されていないが、兵庫県外からも多数の方が来場されており、尼崎の魅力を知っていただけるきっかけになった。イベント終了後も周辺エリアでの飲食などの経済効果もあった。今後、GW期間中の定番音楽祭として県内外に広く周知されることにより、新たな文化発信の街として尼崎が注目を集めることになる予感が実感に変わる日も遠くはないと思われる。よって地域の魅力アップに貢献出来る。						
今後の展望	まずは、来年度も2020年5月の開催が決定している。 ・学生ジャズコンテストの拡大！大学限らず、年齢で区切る。 ・スタッフも若い発想を取り入れ次世代に繋げていく準備を行う。 ・会場を増やしていく。（大ホールの使用） ・ホームページの開設。 ・協働団体との同時開催。（芝生エリアを活用し、他の団体との協働開催） ・スポンサーとの契約により事業拡大。						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	尼崎えびす神社 手づくり市
団体名	尼崎えびす神社手づくり市実行委員会
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	売り手が作成した手作り物の販売や、パフォーマンスを通して、尼崎えびす神社 周辺で活動する飲食店や作家等と住民との交流を促す。
事業内容	尼崎えびす神社及び神田公園にて手作り物の販売 (テント・ござ 51 店) 1 雑貨 2 飲食 3 パフォーマンス 4 子供向けワークショップ (りかちゃん人形カチュウシャづくり、食品サンプル・キッズアクセサリー) 以上 4 部門 5 こども書道コンテスト (島村書道教室 (竹谷町) 協力)

【事業の実施状況を示す写真】



	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	4	18	尼崎えびす神社	第1回 実行委員会 事業計画、出展者募集 締め切り、ポスター、 チラシのデザイン案	12	11
			25	尼崎えびす神社	第2回 実行委員会 出店者報告 パフォーマンス決定事項 書道作品募集開始 テント設営計画 ポスター、チラシ配布	12	11
	5	10		地元商店街 竹谷小学校		12	ポスター 50 チラシ 100
				尼崎えびす神社	第3回 実行委員会 神田公園内区画図確認 出店料入金報告 パフォーマンス スケジュール決定	12	12
			18	中央公園	看板・幟設置	12	4
			25	尼崎えびす神社 神田公園	テント、舞台設営 区画整備	12	6
26	尼崎えびす神社 神田公園	尼崎えびす神社 手づくり市	12	3500			
目標の 達成状況	目標であった3500人達成 と考える（スタッフ 参加者の報告）						
事業効果	<p>老若男女、市民、他市民が手作り物を通してコミュニケーションを図り、良い縁を作るきっかけとなるイベントになったと考える。このような新たな人間関係は生活上の楽しみや生きがい、新たな共同体にもなり地域の活性化へと繋がる。</p> <p>（出店した尼崎市の手作りペットフード店が参加者を通して海外輸出の商談へと繋がった。）手づくり市は年々知名度も高くなり他都市からの多くの参加者も見られる。尼崎えびす神社までの道中にある商店街や施設を知ってもらい、利用してもらおうきっかけにもなり、当日は地域が大勢の人で盛況に終わった。</p>						
今後の展望	<p>このイベントを継続していくよう地域の方々とのコミュニケーションを図り、皆で地域活性化活動に貢献できるように努める。</p> <p>さらに参加者を増やせるよう楽しい年毎に新たなイベントを考えていきたい。</p>						

事業報告書

事業名	大庄地区カラス対策事業
団体名	市民運動大庄地区推進協議会
活動地域	① (尼崎) 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	なし
事業の 目的・趣旨	<p>カラスによるごみ荒らしの被害が増加しており、ごみの散乱や異臭問題が地域内で発生している。カラスは鳥獣保護法に基づき駆除する際には市の許可が必要であり、駆除以外の解決策を講じることが地域で必要となっている。</p> <p>現在、各家庭での防鳥ネット等による対策も講じられているが、効果的な利用方法が取られていない場合もあり、カラス被害の減少には至っていない。しっかりとごみの防護を行い、食べられるエサを少なくし、カラスの生息を少なくすることが、解決につながる対策であると考え、適切なカラス対策の周知やカラスに対する理解を、地域住民に呼びかけていく。</p>
事業内容	<p>昨年度はモデル地区において、ゴミ集積場所(尼崎市は原則各戸収集)の調査と「あぜ板枿」のワークショップと効果検証を実施し、2019年度はそれをモデル地区外へと拡大して、普及活動と効果検証の精度向上を図った。</p> <p><事業展開のねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業実施区域を拡大し、地域が協働して対策を講じることで、カラス被害の抜け穴を埋めた。(学習能力が高いといわれるカラスは、対策を講じていない場所を覚えることができるため、各個人ごとの対策では、街の美化につながりにくいという課題があった。) ・あぜ板枿の作成ノウハウや利用方法、効用などを個人単位で修得させることで、効率的で広域的な事業実施区域の拡大を目指した。 <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人向け対策ワークショップ 大庄各地区 ・アンケートの実施(効用、使用感、使用方法、課題等) ・結果の公表 尼崎市 <p>(※当初予定していた「あぜ板枿づくりワークショップ・カラス対策セミナー」については、大庄地区外へのワークショップの出張講座という形での実施を予定していたが、先方の参加者の都合が悪くなり、今年度の実施は見送った。)</p>

(別紙4-2)

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	4～		大庄地区内	事業計画の周知・広報 (事業計画書の配布による)	27	
	2019	10～		各地区内	個人向け対策ワークショップ	15	77
	2020	1～		大庄地区内	効果検証(アンケートによる)	10	11
	2020	2～		大庄地区内 及び尼崎市	結果の公表(地域回覧)	27	
目標の 達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の周知期間を長期に設けることで、各ワークショップ(当協議会主催及び各地区内個人向け)の参加人数合計 100 名を目指し、77 人の参加を得た。 ・各地区内個人向けのワークショップを、各地区 1 回以上の開催を目指したが、15 連協中 10 連協での実施にとどまった。(一部合同で実施したため、計 6 回の実施。) 						
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施区域を拡大したこと、昨年度から継続的に事業を実施したこと、さらには各地区内でワークショップを実施したことで、あぜ板枠そのもの及び効用に関する認知度が上がった。 ・あぜ板枠作成の際の細かな作成手順等について、各ワークショップを通じてノウハウの改良が行われた。 ・昨年度の課題の一つである“重さ”について、解決につながるアイデアの提案があった。 ・一部ワークショップを合同実施したことで、参加人数が少なかった連協や高齢者の参加が多かった連協が協力者を得られ、ワークショップを実現できた。また、普段顔なじみでない参加者同士がワークショップの際に交流し、参加者間で満足感や達成感のようなものが共有されていた。 						
今後の 展望	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施を見送った「あぜ板枠づくりワークショップ・カラス対策セミナー」の大庄地区外へのワークショップの出張講座を実施する。 ・利用者からみた効果検証は十分に行えたため、行政との連携を図りながら、街の美化へつながっているかどうかとう俯瞰的效果検証を試みたい。 ・地域課題を解決するとともに、課題解決に向けて地域が協働することで、新たなつながりや顔つなぎを達成する。 						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	5・5フェスタ 2019
団体名	芦屋市子ども会連絡協議会（芦屋市体育協会共催）
活動地域	1 （芦屋）市 ●2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 神戸市東灘区)
協働団体	共催：芦屋市体育協会 協力：芦屋市老人会Y〇倶楽部 芦屋市消防本部 芦屋市防災安全課 園田女子学園松葉ゼミ 心豊かな人づくり 500人委員会阪神南〇B会 芦屋市更生保護女性会、兵庫県プロフェッショナルダンス協会 キワニスクラブ シンコースポーツ（指定管理会社）
事業の目的・趣旨	子どもの日にちなみ、心技体の多角的な面から 子どもの健全育成を図り 世代間交流しながら 子どもの日を祝う。小さい頃の楽しかった体験は 子どもの成長に多大な影響を与え、芦屋が懐かしいふるさととして子どもの心に根付くことを期待する。いろいろな団体に協力をいただくことで、多世代との交流ができ、地域のネットワークづくりも期待できる。
事業内容	●5・5フェスタ 芦屋市青少年センター（2019年5月5日（日）10時～15時） 青少年センター、川西運動場を開放し、子ども達が自由に遊べる場を提供した。 内 容 スポーツ体験(卓球 バレーボール サッカー ラグビー ニュースポーツ バドミントン 社交ダンスなど) 映画会 手作りゲーム(スマートボール ダーツ 魚釣り おもちゃつかみ スーパーボールすくい 缶つまなど) クラフト作り バルーンアート、昔あそび 防犯・防災 食育コーナー など

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数		
						スタッフ	参加者	
事業経過	31	4		青少年センター	関係諸団体との打合せ	随時		
			9	青少年センター	センター新指定管理者との打合せ	2	9	
			13		ポスター・ちらし作成	4	8	
			15		市内幼保小にチラシ配布	1	2	
			27		青少年センター	5・5フェスタ実行委員会	2 1	2 1
			5	4	青少年センター	前日会場準備	8	3 0
				5	青少年センター	55フェスタ当日	2 5 0	7 0 0
				25	青少年センター	協力団体への礼状作成・送付 市子ども会 反省会ほか	1 3 7	 3 7

<p>目標の達成状況</p>	<p>大型連休で旅行や帰省のため スタッフを集めるのに苦労した単位子ども会もあったが、参加者数はほぼ例年通りだった。良い天気恵まれ、どのコーナーも子ども達楽しそうに参加していた。 各単位子ども会より スタッフ 大人 48人 子ども 46人 市子ども会役員・事務局 14人 協力団体より 51人 心豊かな人づくり 500人委員会阪神南OB会 25人 体育協会 65人 当日の来場者 500人 (未就学児 140 小学生 170 中学生 10 保護者)</p>
<p>事業効果</p>	<p>地域で活動する諸団体と連携することにより、世代間交流ができ、地域の団体に子ども会を知ってもらう良い機会となった。 防災安全課や警察(生活安全課)・大学のゼミが関わることにより、楽しみながら防犯、防災、食育の学習もできた。 体育協会は色々なスポーツの体験コーナーを設け、子ども達に体験の機会を与えることができた。 子ども達には 子どもの日に楽しく遊んだ思い出が心に残り、芦屋が懐かしいふるさととして心に根付くことを願う。 子ども会の子供達色々なコーナーにスタッフとして参加し、地域行事の運営の一端を楽しんで担うことができた。今後の単位子ども会の活動においても、この経験を生かして、リーダーシップを発揮してくれることを期待している。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今回の協力団体が、また来年も協力しましょうと快諾して下さっている。 今年度から指定管理を担当される シンコースポーツさんも来年度はもっと主体的に 共催団体として関わって下さることになっている(体力測定コーナーなどを提案されている)ので、さらに充実したものにしていきたい。</p>

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	芦屋写真展 2019
団体名	一般社団法人 芦屋写真協会
活動地域	1 (芦屋・西宮) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：神戸市他 日本各地)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>芦屋を写真の街として再び日本およびパリに認知してもらう活動を行う。</p> <p>学生の創作意識を刺激するとともに、将来参加校が増加する活動を実施する。</p> <p>会場には協会会員が在廊し、展示作品などについての説明、質問を受けることにより来場者との交流を図る。</p>
事業内容	<p>芦屋写真展 2019 原田の森ギャラリー (2019年6月5日～9日)</p> <p>「芦屋」を冠した写真展を行うことにより、「写真の街・芦屋」を日本・パリへ発信。</p> <p>展 示 【テーマ】「新しき美の創作と発見」</p> <p>公募入選作品約250点、パリフォトクラブメンバーの作品15点</p> <p>会場中央に学生ブースを設置し、学生作品を展示(80点)</p> <p>表 彰 審査委員5名の評価により入賞作品20点を決定。学生作品については来場者投票による「学生トップ賞」を選定。表彰式では入賞者が作品について語る時間と質問コーナーを設ける。</p> <p>周 知 NHK神戸放送局、新聞5紙、雑誌3誌へ情報案内が掲載された。</p> <p>インターネット(SNSなど)、地域のギャラリー、フォトサークルへ案内ハガキを配布、知人友人を通じて広く写真展開催の案内を行った。</p> <p>会場の外側に大型ポスター等(2.7m×1.8m 0.9m×1.8m)を掲示</p> <p>会場の内側に大型ポスター(1.2m×4m、A1ポスター3枚)等を掲示</p> <p>来場者に目録、審査員寸評、アンケート、投票用紙を配布</p> <p>その他 入賞20作品はパリのギャラリーに展示し、入賞写真家に現地写真家との交流の機会を提供。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	4	5	芦屋市商工会館	4/5 一次審査 応募作品の中から約 250 点の入選作品を選考	50名	出展者 265名 来場者 1644名
		6	4	兵庫県立美術館 王子分館原田の森ギャラリー	6/4 二次審査 会場に展示した入選作品から入賞作品 20 点を選考		
		6	5	同上	6/5～6/9 芦屋写真展 2019 開催 ・5名の審査員が選考した入選作品 230 点、入賞作品 20 点、パリフォトクラブ 15 作品、学生作品 100 点 ・最終日 (6/9) に表彰式を実施		
目標の達成状況	応募者 159名 (目標の 200名に満たず) 応募作品 406点 参加者 1909名 (来場者 1644名 出展者 265名)						
事業効果	<p>「写真の街 芦屋」を拠点として老若男女問わずに集い、活動の場を神戸～全国へと拡げてゆく中で写真文化を地域に根付かせてゆくという目標を持って、今年も全国規模の写真公募展を企画した。</p> <p>TV、新聞、雑誌、SNS などの媒体により芦屋写真展 2019 の情報が拡散されたことにより、「写真」・「芦屋」が関連づけられ広めることができた。</p> <p>地域の写真愛好家に加え、全国から多くの写真愛好家が来場し、「写真の街 芦屋」の存在が広く知られる効果があった。</p> <p>「学生トップ賞」を設けたことで、学生たちの制作意欲が強まりさらに質の高い作品が出展された。来場者投票ということで、来場された方に参加意識が生まるとともに「学生参加」への関心が強くなった。</p> <p>「新しい美」を表現した作品を見ていただき、来場者から大変好評を得るなかで、相互交流することによりレベルアップへの意識が高まった。</p>						
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともいろいろな事業を通じ、「写真の街 芦屋」を発信してゆく。 ・海外については最近、ポーランド ウッチ市の写真クラブとの交流が始まった。芦屋をパリのほか ポーランドにも認知してもらおう活動を行ってゆく。 						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	「マルシェ&カフェ つむぎ」事業
団体名	園田北小学校区まちづくり協議会
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	
事業の目的・趣旨	園田北小学校区の高齢化率は30%を超え、一人暮らしや認知症高齢者が増加しているが、近隣にスーパーもなく買い物に困っている人も多く、地域の人気が気軽に集える居場所もない中、高齢者の居場所づくりが地域の課題と考えている。 そこで、地域の店舗の未使用時間帯を活用し、地域で寄せ合い市(マルシェ)とコミュニティ・カフェを実施することによって、誰でも気軽に買い物やカフェでの交流を楽しむことで、地域の活性化につなげる。
事業内容	原則、毎週土曜日午前10時~12時に開催。 地域の店舗内及びエアコンを清掃し、マルシェでは、店舗前空きスペースに地域の方々が作った野菜、パンなどを並べて販売、またコミュニティ・カフェでは、マルシェを訪れた方が気軽に会話や交流を楽しめるよう、お茶やコーヒーなどを用意し、高齢者を中心とした地域の居場所づくりを進めた。

(別紙4-2)

	年 月 日	場所	実施内容	参加人数	
				スタッフ	参加者
事業経過	2019 6		「マルシェ&カフェつむぎ」開店準備	5名	
	2019 7 13 ~ ~ ~	居酒屋 空	「マルシェ&カフェつむぎ」開店 (日時) 毎週土曜日 10~12時 (内容) ①カフェ(店内) お茶・ジュース・ コーヒーなど ②マルシェ(店外) 野菜・パンなど 《計26回開催》	5名/ 日	約40 名/日
	2020 2 22				

<p>目標の 達成状況</p>	<p>◆目標① 毎週土曜日に事業を実施する (達成状況) 概ね達成 (理由) 当初予定通り、運営スタッフが協力しながら原則週1日の営業を継続。</p> <p>◆目標② 常時2名のスタッフで運営できるようにする (達成状況) 概ね達成 (理由) 運営体制として、マルシェは野菜・パンなど、持ち寄ったものの担当者が、カフェはスタッフ2名で運営している。カフェスタッフはボランティアではなく、カフェの売上げから一定の費用を支払うことで持続的な運営としている。</p> <p>◆目標③ 1日50名程度の利用者数をめざす (達成状況) 概ね達成 (理由) 毎回の利用者数はカフェが約10名、マルシェは約20~30名が交流や買い物を楽しみに訪れており、本事業が徐々に地域に根付いてきたと感じている。</p>
<p>事業効果</p>	<p>・マルシェに買い物に来たお客さん同士で会話が生まれたり、カフェの中で子どもとお年寄りといった異世代の交流が生まれたり、地域の方同士が交流し、触れ合うことのできる居場所として機能しつつあると実感している。</p> <p>・カフェの利用者は高齢者が多く、認知症の方も来られることから、認知症予防に効果があるとされる麻雀ができるスペースも設けている。利用者同士で麻雀に詳しい方が初めての方に教えていたり、認知症の方も健常者に交じって楽しみながら交流している姿が見られる。</p> <p>・マルシェにおいては、毎週野菜やパンなどを楽しみにきてくださるお客さんがおり、買い物施設が少ない本地域において一定のニーズを満たしていると感じられる。また、地域内外の人に「マルシェ&カフェつむぎ」及び本地域を知ってもらうため、運営スタッフで考えたオリジナルの「猪名寺おでん」(おでんに地域で採れた「田能芋」を加えたもの)を作って販売をしたり、地域活性化に向けた取り組みも行っている。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>・現在、地域の方が集う居場所として機能しつつあるため、今後も気軽に交流できる環境づくりの維持・向上に努める。</p> <p>・また、今後の展望として、地域活動に参加されない独居老人など、見守りが必要な方にも「マルシェ&カフェ つむぎ」を知ってもらい、つむぎを通して顔見知りの関係を作れるよう、関係機関(近隣の薬局・郵便局など)と連携してつむぎを拠点に独居老人など地域で見守りが必要な方とのネットワークを築くことができると考えている。</p>

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	Amagasaki Dance Contest
団体名	尼崎あきんど倶楽部
活動地域	1 () 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：京阪神地域)
協働団体	
事業の目的・趣旨	本倶楽部では、地元である尼崎市の地域活性化に貢献することを目的とし、まちづくりや青少年育成の取り組みも実施している。今回のダンスコンテストでは、青少年育成に資することに加え、例年市外からも多くの参加者があるため、その方々に地元尼崎の地域資源をPRし、今後の来街を促す。
事業内容	<p>令和元年9月23日に、あましんアルカイックホール・オクトで開催。 〔準備〕</p> <p>6月1日より尼崎あきんど倶楽部ホームページで参加者の募集を開始し、キッズ部門・一般部門共に23チーム、合計46チームのエントリーがあった。</p> <p>当日の開催までに4回の実行委員会を開催し、審査員の選定やプログラム、スタッフの動き等について協議を重ねた。</p> <p>〔開催状況〕</p> <p>当日は、台風の影響で朝8時頃まで警報発令されていたため、開始時間を遅らせ午後から開催。早朝より各関係者への連絡を行い、円滑な情報発信に努めた。</p> <p>そのような状況の中でも、申込46チーム(162名)の競技参加、観覧者359名の来場があり、会場は満席となった。</p> <p>事業内容としては①会長挨拶、②審査員のダンサーの紹介、③キッズ部門競技、④一般部門競技、⑤審査員によるゲストパフォーマンス、⑥表彰式の順で実施。</p> <p>両部門共に、審査はプロのダンサーによる採点を基本に、優勝・準優勝・3位を決定した。また、本倶楽部役員による印象審査を加味し、特別賞も授与した。</p> <p>会場のアルカイックホールオクトは、その音響照明設備及びスタッフが国内でも大変評価されており、競技者にとっては、一流の照明と音響の中でダンスを披露することができる機会となることから、「また参加したい」等の好意的なアンケート内容であった。また、当日スタッフ40名にも、朝の開始時間変更の連絡や競技面でも丁寧な誘導等ができたことから「安心してダンスができた」と参加チームより評価をいただいた。</p> <p>また、今回はホール2Fロビーに、尼崎城を紹介するブースを設け、子供たちが顔出しパネルで写真を撮るなど、競技の合間に尼崎城に関心を持ってもらうことができた。なお、PRにあたっては、一般社団法人あまがさき観光局に協力いただき、パンフレットの提供に加え、大型パネルや映像を借りることができ、目を引くブースづくりができた。</p>

(別紙 4-2)

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	6	1	HP	参加募集開始		
	2019	6	20	尼崎商工会議 所会議室	実行委員会 (全体方針等説明)	15	
	2019	7	25	尼崎商工会議 所会議室	実行委員会 (審査方法等)	15	
	2019	8	21	尼崎商工会議 所会議室	実行委員会 (各担当者の配置決め等)	15	
	2019	9	18	尼崎商工会議 所会議室	実行委員会 (当日の動き等打ち合わせ等)	15	
	2019	9	23	あましんアル カイクホー ルオクト	Amagasaki Dance Contest	40	162名
目標の 達成状況	<p>当初目標としていた参加 50 チームには届かなかったものの、キッズ部門・一般部門共に 23 チームで全 46 チームの参加があり、昨年の 39 チームより参加チームを伸ばし、会場が満席になるほど盛況に開催することができた。</p> <p>また、尼崎城のPRについても、映像に見入っていたり、パンフレットを手にとってもらったり、顔出しパネルで写真を撮るなどにより、尼崎城の存在をアピールすることができたと感じている。</p>						
事業効果	<p>全 46 チームに参加いただき、日ごろの練習の成果を大きな舞台上で披露してもらい、盛況に実施することができた。また、運営側としても、初めて運営に参加した本倶楽部メンバーも多く、参加した子供たちの笑顔を見て、本事業の青少年育成と社会貢献の意義を感じとり、とても充実したコンテストとなった。</p> <p>尼崎城PRについては、市外から来た参加者の皆様に、尼崎城の存在を大きくPRできたものと感じており、今後の尼崎城への来場が期待される。</p>						
今後の展望	<p>本事業については、本倶楽部の他の社会貢献事業との関係もあり、来年度に実施するかはまだ決定していないが、継続事業として隔年等でも実施していく方針である。また、市外からも多くの参加者が来る機会となることから、少しでも尼崎に来街してもらえるような仕掛けを今後も考えていく。</p>						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	次世代を担う子供達への地域の伝統行事継承事業
団体名	松原神社太鼓保存会
活動地域	① (尼 崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	浜田子供会、浜田社会福祉連絡協議会
事業の 目的・趣旨	歴史ある地域の伝統行事を、次世代を担う子供達に体験させ、行事を担う人材育成を図るとともに、直接伝統文化に触れさせることにより、子供達のふるさと意識の醸成を図る。 また、地域住民が講師として参加するなど多くの地域住民を巻き込み、交流を図ることで地域住民のつながりを強化する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちへの地域伝統行事継承事業 9月30日～10月11日までの11日間(雨天中止1日)、小・中学生を対象としたお囃子等の講習会を実施した。講習会では、地域住民が講師となり子どもたちを指導した。 また、子ども会と協力してラジオ体操参加時の出席カードにヒントを得て、お囃子練習出席カードを作成し、子どもたちの講習会への参加を促すこととした。 本宮(1日2回)に、120人の子ども達に曳き綱による曳行体験を実施した。 また、今回の取組み(ラジオ体操方式)の効果を検証すると共に、当初予定していたホームページの作成は断念することとなったが、新聞への案内記事の掲載や、ツイッターへの投稿等による広報活動に取り組んだ。 今後は、同様の悩みを抱える他地域に対しても広く取組みを紹介広報し、少子高齢化による寄付の減少については企業等から協賛金や賛助金を集められるよう工夫する。 ・ 清掃活動事業 祭りの後片付けと松原神社及び地域内を掃除させることで、自分たちの住む「きれいなまちづくり」に対する意識を醸成させる。

【事業の実施状況を示す写真】



	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	元	9	30	松原神社境内	お囃子(太鼓・平鐘・釣鐘) の練習	8	18
		10	1	"		7	32
		"	2	"		5	28
		"	3	"		雨天	中止
		"	4	"		8	35
		"	5	"		5	25
		"	6	"		12	30
		"	7	"		5	33
		"	8	"		8	34
		"	9	"		7	35
		"	10	"		8	38
		"	11	"	10	41	
		"	12	氏子町内巡行	曳き綱による曳行体験を実施。	雨天	中止
		"	13	"		52	120
	"	14	松原神社境内	後片付けと清掃活動	33	31	
目標の 達成状況	<p>① お囃子(太鼓・平鐘・釣鐘)の練習 9月30日～10月11日までの11日間(雨天中止1日)において、1日約31人、延べ350人がお囃子の練習に参加した。</p> <p>② 曳行体験 10月12日(宵宮)は雨天中止 10月13日(本宮)1日間のみ実施(子供参加者 120人)</p> <p>① 後片付けと清掃活動 10月14日の後片付けと松原神社周辺のゴミ掃除を実施した。 (スタッフ 33人:参加者 31人)</p>						
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 次世代を担う子供達を対象とした地域の伝統行事継承事業 11日間のお囃子練習、本宮での曳き綱による曳行体験を実施することにより、歴史ある地域の伝統行事を継承するとともに、直接伝統文化に触れさせることで、子供達に対して郷土愛の醸成と伝統文化継承に対する関心を深めることができた。 新調された太鼓は子供達に好評であった。 清掃活動事業 祭の後片付けと松原神社及び地域内を掃除することで、自分たちの住む「きれいなまちづくり」に対する意識の醸成ができた。 						
今後の展望	<p>少子高齢化の波は確実に、急速に押し寄せてきているが、そんな中、今回の事業により子供達のお囃子練習の環境が整い、子供の参加人数も増加した。</p> <p>今後は、高齢化の進む地域の社会福祉協議会及び入会者の減少が進む子供会との更なる協力体制構築により、地域の後継者育成に重点を置きながら、参加者同士の交流に努め、郷土愛の醸成と伝統文化継承に対する関心を深めさせていきたい。</p> <p>資金面でも協賛金を募るなど、補助金に頼らない事業運営に努めていく。</p>						

事業報告書

事業名	こころつながる「ふわっとサロン」
団体名	NPO 法人ゲートキーパー支援センター
活動地域	① (尼 崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	COCOWA (心和) ※東日本大震災後、石巻などでアロマケアボランティアを行ってきたグループ
事業の 目的・趣旨	<p>自殺予防に大切なことは、孤立を防ぐことです。様子がおかしいことに気が付いた人が、じっくりと話を聴いて必要な支援に繋ぐことが大切です。顔を見て話を聴くだけでも悩んでいる人は気持ちが軽くなります。</p> <p>そこで、人がいることに気づくこと、否定されないで人と話すこと、一緒に何かに取り組み楽しむことを体験できるよう、こころつながる人との出会いの場「ふわっとサロン」を企画しました。</p> <p>「自分を大切に」「ひとりじゃないよ」というメッセージを、この「ふわっとサロン」から地域に広げていきたいと思えます。</p>
事業内容	<p>(当日の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ ふわっと集合(アロマタッチケア体験) <ul style="list-style-type: none"> COCOWA (心和) の皆さんによるアロマタッチケアを体験してもらう。 一人 15 分～20 分 待ち時間は、サロン風のテーブルで、ハーブティやお菓子をつまみながら参加者の方に自由に過ごしてもらった。 当日用意したアロマオイル、精油などの香りを楽しんでもらえた。 集合時間は、休日に楽な気持ちで来て頂けるよう幅を持たせた。(ふわっと集合) 休日にあわてることなく立ち寄っていただくというイメージ。 ➤ 「アロマタッチケアを使った、傾聴ボランティア体験」について <p>講師: 藤崎恵子氏</p> <p>震災後石巻市にて、辛さを話すことも難しい方やトラウマを抱えた方の心を癒す方法として、アロマタッチケアをしながら話を聴いたり、ただ静かに時を過ごしたりするケアを行ってきた藤崎氏にパワーポイントによる講演をいただいた。震災直後の街やケアの様子の写真とともに、現地の方とのふれあいが話された。</p> <p>後半は、自分自身が災害に遭遇した時の対処の方法などもお話いただいた。</p> ➤ 香りで癒すアロマタッチケア講座 <ul style="list-style-type: none"> 講師より、二人一組で行うアロマタッチケアの説明を受けた後、アロマタッチケア実習を行った。 ➤ 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 円座になって、今日の振り返りを行った。 ・初対面なのに、こんなに親しく感じられるなんて不思議です。 ・男同士で行ったのが残念です (笑) ・家に帰って、同居している親にしてあげたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・いい香りに包まれるのは、気持ちがいいですね。 ・東日本大震災の話が心に残った。自分にも何か力になれることを身につけたいと思った。 <p>➤ セルフケアハンドブック</p> <p>参加者が家に帰っても挑戦できるよう、また他のセルフケアについても知ることができるよう、セルフケアハンドブックを作成した。参加者に配布。ゲートキーパーとして活躍している団体へも送付した。</p>
--	---

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	10	9	尼崎第一ビル	会議（事前）	2	
			11		「ふわっとサロン」①	2	9
	2020	1	11		「ふわっとサロン」②	3	12
					振り返り	3	
目標の達成状況	<p>各回 15名の集客を目指した。チラシ・HPで広報を行い、当法人のゲートキーパー研修でもチラシを持参し、アピールした。その結果、1回目、2回目とも定員の申し込みがあったが、キャンセルも多く、参加者は1回目9名、2回目15名となった。</p> <p>しかし、癒しを体験され、家にも持ち帰っていただけたことは、事業の質は十分達成できた。</p>						
事業効果	<p>アロマタッチケアは、災害時に体を癒しながら心も癒し、人に話せなかった辛さを吐き出すことができるケアとして注目されています。この「ふわっとサロン」で学んだ人が、支援者として、また大切な人のために、このケアを行うことで、サロンの外でも効果が広がっていきます。</p> <p>持ち帰ってもできるように、来られた方に「ゲートキーパーのためのセルフケアハンドブック」を配布しました。</p> <p>自分をケアし大切にすることは、人を大切にすることにつながります。隣の人への無関心は、孤独や孤立につながります。定期的に「ふわっとサロン」を開催することで、ストレスが癒される人が増えれば、地域全体に優しさが広がっていきます。</p>						
今後の展望	<p>アロマケア体験講座を通して、他の方のためにボランティアでやってみたいという声も上がった。万が一、地元が被災したときに役に立つように、実践的に何かの催し物でブースを作って行うなど、「ふわっとサロン」が外に出ていくようなことも考えてみたい。</p>						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	園田の五の市
団体名	園田中央商店街 商友会
活動地域	① 1 (尼 崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町 :)
協働団体	園和小学校地域学校協働本部
事業の 目的・趣旨	<p>まちなかに子どもや高齢者が安心して過ごせる賑わいの場を、商店街機能を強化することでつくりあげていく。そのために安心安全の場を各店舗が整える場をつくるとともに、商店街や商店と住民の接点の場をつくることで、双方の交流の機会を増やす。結果、まちなかに住民コミュニケーションの場をつくりあげる。</p> <p>住民の集まる場をつくることで、周辺環境を見直し、美観の保持・安心安全な環境への整備を整える機会をつくる。</p> <p>商店街の若手に企画を委ね、隣接小学校との連携のもと、事業の過程で子供達とのふれあいの場を形成できるように企画を進めていく。</p> <p>近隣の福田寺に場の提供の協力をいただき、新しい世代の巻き込みのためにも、SNS環境の整備を企画実施の中で行っていく。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 近隣の福田寺とのコラボレーション(福田寺集会所で実行委員会) <ul style="list-style-type: none"> 地域内寺院として近隣住民の憩いの場となっており、境内や集会所の開放等、地域住民の集いやすい環境を整備。運営会議の場として活用した。 ➤ 福田寺の毎月5日さの護摩焚き法要とタイミングをあわせた「園田五の市」の実施 <ul style="list-style-type: none"> タペストリーの制作・掲示で広報。 各店頭で市民がよろこぶ企画を用意して掲示 10月5日(参加 10 店舗)、11月5日(参加 15 店舗) ➤ 子ども達の社会奉仕を学ぶ場として「商店街大掃除」の実施 <ul style="list-style-type: none"> 商店街に面する園和小学校と連携し、通学路である商店街を大掃除した。 実施日：7月20日 10時～11時 場 所：園和小学校校門前～園田中央商店街 参加者：約 55 人(商店街メンバー25 人、近隣住民 30 人(子ども 10 人)) 終了後：参加者に商店会からソフトクリームを提供 参加した子ども達には、園和小学校承認地域ボランティアカードを発行(今後、地域ボランティアに参加する都度捺印) ➤ 子ども達が住んでいる町を歩いて知る <ul style="list-style-type: none"> 見守りの場として商店主を知る機会づくりとして「ハロウィンツアー」を園和小学校地域学校協働本部と協働して実施。 実施日：10月27日 9時～12時 参加者：未就学児童 8 人、小学生 25 人、親複数名 子ども達が仮装して商店街を回り、店主も仮装し賑やかに子ども達を迎え、交流。店頭にはハロウィン飾りを施し、家族揃って楽しめる雰囲気を出した。

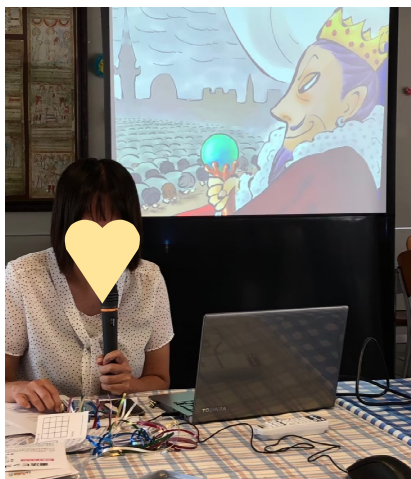
	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	6	11	福田寺集会所	運営会議	7	
			7	福田寺集会所	運営会議	5	
		7	20	園和小学校前 ～園田中央商店街	「通学路の商店街を洗おう」 大掃除	25	55
			9	福田寺集会所	企画会議	6	
		10	5	園田中央商店街	幟を掲示・マップの配布、 各店頭で市	3	10
		10	27	商店街	ハロウィンツアー	15	50
		10	29	福田寺集会所	運営会議	6	
		11	5	園田中央商店街	幟を掲示、各店頭で市	3	15
目標の 達成状況	<p>園和小学校との連携を図り、通学路である商店街の大掃除を学内で「地域に関わるボランティア活動」の意識を持つきっかけとして、全校生にチラシを配布。当日は、商店主、近隣住民、子ども連れ家族とともに、デッキブラシで商店街の大掃除を実施。</p> <p>さらにこの動きを継続し、通学路となっている商店街が子ども達が安心して立ち寄れる場となるべくハロウィンツアーを実施した。</p> <p>地域貢献・小学校の存在が、商店会内で意識向上し、お互いに良い関係が生まれた。</p> <p>五の市を地域の人に知ってもらい、商店街をかつてのまちなか情報交換の場として活用してもらうため、五の市の幟を、毎月の恒例として習慣化している福田寺の「5日の護摩焚き」の幟とともに商店街に掲示した。</p>						
事業効果	<p>地域内小学校との協働関係が強化され、関係が深まった。</p> <p>さらに、小学生達が商店主と知り合う機会を得た。</p> <p>一連の活動の影響か、地域団体からの商店街へのイベント協力の依頼が増えた。住民の個店への立ち寄り、商店街を安全安心の場として意識。さらにハロウィンツアーを続けて行うことにより、通学路でもある商店街の店主と顔なじみになり、子ども達への声かけ、大人との挨拶の励行など良い関係が育まれた。今後のまちなかコミュニティの関係づくりにも寄与したと考えられる。</p>						
今後の展望	<p>まちなかの商店を知ってもらうことは、高齢者や幼児の母親など活動範囲の狭くなりがちな住民の生活の糧となる。店舗集積地である商店街への来街を日常化することで、コミュニケーションの場、見守りの場として機能していくと考えている。</p> <p>コミュニケーションの場となる機会を増やし、安心安全な場・美観の保持につとめることで、地域住民の生活向上に努めることとする。</p> <p>今回、地域内での調整不足で延期となった看板の放置を、来年度の課題として掲げる。看板の設置は、新しく引っ越してきた住民や、他地域からの来街者の援助となる。</p>						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	おぞの子ども居場所づくり推進プロジェクト
団体名	おぞの子ども居場所推進委員会
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	若王寺連絡協議会、小中島連絡協議会
事業の 目的・趣旨	子ども達の健全な育成を目指し、「子どもの居場所」を設置して社会性を育む とともに学習能力の向上を目指す
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習教室 (陶芸・読み聞かせ・英会話・手芸・映画鑑賞会・ 作文教室・憲法ビンゴ・ソーラークッカー料理教室・自習教室) <li style="padding-left: 40px;">朝 10 時から 16 : 00 まで ・ ラジオ体操 <li style="padding-left: 40px;">朝 6 : 00 から 7 : 00 <li style="padding-left: 40px;">小学校校区内 二十公園 (小中島) <li style="padding-left: 80px;">若王寺公園 (若王寺) <li style="padding-left: 80px;">額田公園 (額田)



	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	1	7	22	若王寺子ども食堂	学習教室（各学年の学習プリント）	9	21
	1	7	23	若王寺子ども食堂	学習教室（各学年の学習プリント）	4	15
	1	7	24	若王寺子ども食堂	学習教室・陶芸教室	7	170
	1	7	25	若王寺子ども食堂	学習教室・読み聞かせ	10	26
	1	7	26	若王寺子ども食堂	読み聞かせ・英会話	2	9
	1	7	29	若王寺子ども食堂	学習教室	5	14
	1	7	30	若王寺子ども食堂	学習教室	1	21
	1	7	31	若王寺子ども食堂	手芸教室	2	57
	1	8	1	若王寺子ども食堂	読み聞かせ・作文教室	6	36
	1	8	2	若王寺子ども食堂	読み聞かせ・作文教室	5	31
	1	8	5	若王寺子ども食堂	映画鑑賞会・作文教室	5	43
	1	8	7	若王寺子ども食堂	子ども憲法ビンゴ	5	19
	1	8	8	若王寺子ども食堂	映画鑑賞会・作文教室	5	28
	1	8	9	若王寺子ども食堂	学習教室	3	15
	1	8	19	若王寺子ども食堂	学習教室	3	35
	1	8	20	若王寺子ども食堂	ソーラークッカー	2	21
	1	8	21	若王寺子ども食堂	じいちゃんの手作りおもちゃ	2	11
目標の達成状況	<p>夏休み期間は開催場所（若王寺子ども食堂）の閉鎖期間以外は全日開催することができた。学習教室では市のホームページにある学習プリントを各学年毎に算数と国語をプリントし、自習学習できるようにした。天体観測は教頭先生を通して講師の先生に連絡をし、話を進めていたが、月の見える日と開催予定日の天候、講師の先生との予定が合わず、見送りとなった。冬休みの書き初め教室は、年内開催にしても年明け開催にしても、場所の確保に至らず見送りとなった。</p> <p>1月の第3土曜日に子ども食堂開催に合わせ、計画したがインフルエンザのや新型コロナウイルス等もあり見送った。</p> <p>夏休み子ども居場所については開催回数：17回、総参加者数：のべ572人、ラジオ体操については開催回数：38回、総参加者数：約3054人</p>						
事業効果	<p>事前に学校からボランティア募集のお便りを配布してもらったので、居場所解放時は常にお手伝いに協力してくれた保護者や地域の方が子どもを見守り、子ども達に安心・安全に利用してもらえる場所となった。ラジオ体操では毎朝多くの地域の方が子ども達と楽しみながら体操をし、自然と挨拶や会話が増え、地域の方と子ども達が楽しく交流することができた。また、地域の方の協力のおかげで新たに開催する公園も増えた。子ども達は夏休み中のラジオ体操を父親との課題にしたり、生活リズムを崩さないようにラジオ体操を取り入れたりしたことで、充実した夏休みとなった。学習教室もラジオ体操も親子で利用もあり、世代間、地域間交流の場ともなっていた。</p>						
今後の展望	<p>冬場の居場所確保に至らなかったのが残念。</p> <p>小学校の長期休暇が縮小しており、冬休み期間中、年末年始の開催は難しいと感じたが、子ども食堂は1月にもちつき大会を開催していたので、いろんな団体と協働し、世代間交流・地域間交流の場となるようにしたい。</p> <p>その中で子ども達が自然と地域に育てられる環境を整えていきたい。</p>						

事業報告書

事業名	塚口寄席
団体名	塚口倶楽部
活動地域	<p>1 (尼崎) 市</p> <p>2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：京阪神地域)</p>
協働団体	<p>塚口南町社会福祉協議会</p> <p>社会福祉連合塚口本町青年団</p>
事業の 目的・趣旨	<p>高齢化のすすむ中、まちなかで歩いていける距離で楽しめる機会を設けること。その手段として「落語会」を企画。笑いは心身を健康に至らしめると研究成果がある。外出の機会をもち、共に笑うことで、地域内のコミュニケーションの活性化にも寄与する。</p>
事業内容	<p>塚口寄席落語会の開催</p> <p>第一回塚口寄席をふりかえり、町内の高齢者の声や、子ども会の声を参考にしながら、青年団や町内会と共に企画</p> <p>○場所を分かりやすくする →提灯を会場の一階に位置する店舗の許可を得て掲示</p> <p>○雰囲気づくり →寄席小屋の雰囲気を味わってもらうために提灯を制作掲示</p> <p>○高齢者が楽に楽しめるように →椅子を近くの店舗から借りて、座敷から椅子席に</p> <p>○町内に広く告知 →町内掲示板に加え、近隣店舗の協力を得て、店頭に掲示 →町内回覧板に二度にわたってチラシをはさみこみ →子ども会を通じてチラシを子ども達に配布</p> <p>○楽しめる参加型プログラムに →三味線を弾きながら、童謡や昔の歌と一緒に歌唱 →子ども達にもわかる音曲・落語のネタ →落語の前に、落語の楽しみ方を語ってもらう</p> <p>○子どもや高齢者が集中できるように、小さなお菓子とお茶を配布 →子どもや高齢者が長時間集中して楽しめるように、小さなお菓子のセットとお茶を配布。食べながら落語と三味線を楽しんでもらう。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	R 1	8	1	町内会	町内掲示板に掲示 町内会回覧板・チラシ配置	5	5
		8	5	近隣商店街	店頭掲示・チラシ配置	2	
		8	20	町内会館	子ども会を通じてチラシ配布	2	5
		9	5	会場	提灯掲示	2	
		9	6	会場	青年団・町内会の協力とともに会場準備	5	5
		9	7	落語会実施	寄席実施 お客さん 30 名	5	30
		9	18	反省会議	青年団・子ども会・町内会も加えて反省会議	5	8
目標の達成状況	予定していた参加者 30 名を達成した						
事業効果	<p>高齢者・子どもが集まり、世代間交流の場が生まれた。</p> <p>ひきこもっていて、長く顔を見なかった近隣の高齢者の顔を見ることができた。</p> <p>町内で楽しめる場をつくることができた。</p> <p>老人会が解散してしまったため、高齢者の関係が希薄となっていたが、再度関係づくりを果たす機会となった。</p> <p>青年団・子ども会メンバーと関係強化、町内のコミュニケーションを高めるためにこれから協働しているいろいろなことをやっという気運が生まれる。</p>						
今後の展望	<p>青年団・子ども会・町内会と企画段階から参画をしてもらい、協働して町内の活性化、特に高齢者のひきこもり防止、子ども達の安心安全見守り機能をたかめていく。</p> <p>楽しめる場として、一緒に歌ったり学んだり笑ったりできる寄席を、年に数回定期的に継続していく予定。</p>						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	尼海の会
団体名	特定非営利活動法人 人と自然とまちづくりと
活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 尼崎市立成良中学ネイチャークラブ ・ 徳島大学先端技術科学教育部上月研究室
事業の 目的・趣旨	<p>これまで、我々は尼崎港周辺の①水辺のにぎわい、②水環境の保全、③海の環境保全意識の醸成を目的に、海中の栄養塩循環やそのための市民活動を行ってきた。具体的には尼崎港内においてワカメを育成することや、尼崎港内に位置する運河周辺において謎解きゲームなど、様々な取り組みを実施してきた。</p> <p>本事業では、尼崎港内において、二枚貝を育成することで港内の過剰な栄養塩を回収するとともに、二枚貝の成長をモニタリングすることにより、現在の尼崎の海の状況を、主に中学生を対象とした地域市民への環境教育を実施することを目的とした。</p>
事業内容	<p>尼海の会 活動内容</p> <p>1、尼崎港内人工干潟での二枚貝育成プロジェクト 開始 実施日：令和元年9月16日 実施場所：尼崎港内人工干潟（武庫川下流浄化センター南側） 参加者：18人（主に地元中学生） 実施内容：人工干潟へ二枚貝（アサリ）の入ったカゴの設置 森脇氏による尼崎港内の環境に関するレクチャー</p> <p>2、尼崎港内人工干潟での二枚貝育成プロジェクト 育成状況確認 実施日：令和元年11月4日 実施場所：尼崎港内人工干潟（武庫川下流浄化センター南側） 参加者：21人（主に地元中学生） 実施内容：育成アサリの生残等の状況確認 アサリ50個体のうち、生残したのは2個体のみであった。</p> <p>3、尼崎港内人工干潟での二枚貝育成プロジェクト 終了 実施日：令和2年1月26日 実施場所：尼崎港内人工干潟（武庫川下流浄化センター南側） 参加者：40人（主に地元中学生） 実施内容：育成アサリの生残等の状況確認 11/4に2個体残っていたアサリも生残できていなかった。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	R1	9	16	尼崎港内	二枚貝育成開始 (13:00~17:00)	4	14
	R1	11	4	尼崎港内	二枚貝育成状況確認 (14:00~17:00)	4	17
	R2	1	26	尼崎港内	二枚貝育成終了 (11:00~17:00)	4	36
目標の達成状況	目標であった開催回数3回、参加人数延べ60人はそれぞれ達成することができ、参加人数は延べ79人であった。						
事業効果	<p>二枚貝による尼崎港内の栄養塩類の固定ならびに回収は、残念ながら実現できなかった。</p> <p>しかし、地域の中学生を対象とした海洋環境教育は実施することができ、参加者の海洋保全に関する意識を高めることの一助になったと考えられる。</p> <p>また、今年度の活動ならびにこれまでの活動が評価され、「みんなの尼崎大学」内において海洋学部を設立することとなった。</p>						
今後の展望	<p>上述の尼崎大学海洋学部において、これまでの活動を継続していくとともに、より多くの地元市民、地元企業に参加を促し、資金面も含めた持続可能な活動を展開していくことを予定している。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	花火・de・ミーツ ～障がいがあってもなくても、みんなで打ち上げる花火大会～
団体名	花火・de・ミーツ実行委員会
活動地域	① (西宮)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	ミーツ・ザ・福祉実行委員会、 大人達を作る子ども達への花火大会実行委員会
事業の 目的・趣旨	障がいのある人もない人も協力して一つのイベントを作り上げる機会は全国的に少なく、西宮市も例外ではないが、一緒に打ち上げる花火大会を開催することで、障がいのある人でも祭りの主役になれる場、障がいがある子ども達が手花火に触れられる機会を提供し、西宮市民が様々な障がいへの理解を深めることに繋がる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラウドファンディングによる資金調達 ・ 2019年8月17日(土) 19:20~21:00 西宮市の甲子園浜海浜公園沖地区にて開催 ・ 参加者 約200名(推計) うち車椅子ユーザー20名程度 ・ オープニングイベント → 花火師による鑑賞型花火 → 参加型花火 ・ 鑑賞型花火は11名が5組に分かれてナイアガラ、噴出花火、回転花火などを行った。観客は海岸の岸壁などからそれを眺めた ・ 参加型花火は障がいがある人もない人も大きな輪になってそれぞれが手花火を楽しんだ。観客も希望者は参加してもらったが、見ているだけの人もいた ・ 鑑賞型も参加型も、ドローンにて上空からの記録撮影を行った ・ その映像を障がいのある方々の自宅にも生中継した(配信先4箇所) ・ 10月26日に一部の参加者と懇親会を行った

【事業の実施状況を示す写真】



	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	6	3	西宮市役所	<ul style="list-style-type: none"> 甲子園浜海浜公園沖地区使用許可申請 異動公衆トイレ設置申請 	1	
		6	3	小田北生涯学習プラザ	実行委員会（障がいのある人とない人の交流を含む）	20	30
		6	17	インターネット上	クラウドファンディング開始 SNS等での広報開始	1	
		7	1	小田北生涯学習プラザ	実行委員会（障がいのある人とない人の交流を含む）	20	30
		8	5	小田北生涯学習プラザ	実行委員会（障がいのある人とない人の交流を含む）	20	30
		8	17	甲子園浜海浜公園沖地区	当日準備 花火大会開催	20	200
		10	26	西宮市内店舗	懇親会開催	3	4
目標の達成状況	<p>観客数目標は300名だったが、結果は200名で達成できなかった。しかしこれだけ多くの方に来ていただけたことには意義があったと思われる。</p> <p>参加したスタッフのコメントから、障がいへの理解が高まる機会になったことが推測できた。障がい者が主役になり、障がいのある子供たちが手花火に触れられる機会を提供できた。</p>						
事業効果	<p>参加者、観客両方から、概ね好意的な反応をいただいた。</p> <p>発達障害のためコミュニケーションが苦手な方が花火師として参加されていたが、人前で花火師を務めることができとても喜んでいらっしやった。</p> <p>障がいのある子どもを持つ親からは、子ども達が生まれて初めて花火を見て持つことができ嬉しかった、来年も開催してほしいという意見をいただいた。</p> <p>スタッフからも、親睦を深め、障がいへの理解を深めることに繋がったと聞いている。</p>						
今後の展望	<p>2020年はCOVID-19のため2019年と同じ形での開催は見込んでいない。</p> <p>手花火の体験が好評だったことから、放課後等デイサービスや支援学校などにスタッフが花火を持参し、3密を避けた環境下で手花火を楽しんでいただき、その様子を映像にて記録する予定である。</p> <p>2020年度も資金調達は大きな問題となる。花火費用は参加者負担とし、残りは協働団体ミーツ・ザ・福祉実行委員会の資金等の協力を依頼する予定である。</p>						

事業報告書

事業名	森の自由研究フェス 2019
団体名	森の自由研究フェス実行委員会
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町 :)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>都市部、平野部、工業地帯である尼崎においては、こどもたちが自然に触れる機会が少ない一方で、人口密度が高く、様々な人が集う街である尼崎であるにもかかわらず、こどもたちが町の大人と出会う機会が少ない。</p> <p>そこで、「尼崎の森」という町の資源を生かし、自然に触れられたり思いっきり学んだり遊んだりできる環境を作り、また、子どもたちが尼崎を中心とした町の大人と出会える契機とする。</p>
事業内容	<p>1. 「森の自由研究フェス 2019」 の開催</p> <p>2019年7月21日に、尼崎の森中央緑地で「森の自由研究フェス 2019」を開催。尼崎を中心とした企業や団体などが、芝生広場やパークセンター内に体験型又は飲食ブースを合計 25 ブース出展した。</p> <p>SNS での告知や、地域新聞への掲載、ラジオ出演に加え、尼崎の森中央緑地の協力により市内の小学校へチラシを配布し、前年よりも来場者が増加した。</p> <p>2. 「みんなのサマーセミナー2019」 への参加</p> <p>2019年8/3、4に琴ノ浦高校で開催された「みんなのサマーセミナー2019」子ども休憩スペースにおいて、「スライム作り」や「クレヨンメルトアート」などのコンテンツを実施した。</p> <p>参加者：10名</p> <p>3. 「森の自由研究フェス 2019 プチ」 を実施</p> <p>自由研究フェスのスピンオフ企画として、2019年12月21日に「学習教室こかげ」にて「森の自由研究フェス 2019 プチ」を開催。</p> <p>「スライム作り」、「クレヨンメルトアート」、「くるみぼたん作り」の3つのコンテンツを用意した。</p> <p>参加者のべ20名</p> <p>4. 「梅の花マーケット 2020」 に参加</p> <p>2020年2月23日に開催された「梅の花マーケット 2020」にブース出展の形で参加。「ひらがなプラバン」のコンテンツで出展した。</p> <p>参加者：16名</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	6	2	学習教室こかげ	企画 意見交換会①	2	7
		6	15	abiz	企画 意見交換会②	3	8
	6	29	学習教室こかげ	企画 意見交換会③	4	7	
	7	6	hinata	出展者・ボランティア説明会	5	18	
	7	13	学習教室こかげ	企画ミーティング	5		
	7	20	尼崎の森中央緑地	事前準備	12		
	7	21	尼崎の森中央緑地	「森の自由研究フェス 2019」	30	2500	
	8	3.4	琴ノ浦高校	「みんなのサマーセミナー」	2	10	
	12	21	学習教室こかげ	「森の自由研究フェス プチ」	5	20	
	2020	2	23	梅の花保育園	「梅の花マーケット」	4	16
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「森の自由研究フェス 2019」への参加者 500 人以上 →来場者約 2500 人。 ・「森の自由研究フェス 2019」出展ブース 20 以上 →合計 25 のブースが出展。 ・意見交換会(「だれでもミーティング」)を 3 回以上開催 →3 回(6/2、6/15、6/29)開催 ・7/21 のイベント以外に他のイベントへブース出店を 2 回以上 →3 回イベントやブース出展を行なった。 (みんなのサマーセミナー、森の自由研究フェスプチ、梅の花マーケット) 						
事業効果	<p>1. 地域資源の魅力を発信する</p> <p>前回より多くの参加があり、「尼崎の森中央緑地」を知り足を運んでもらうきっかけとすることができた。当日は天気もよく、持参テントを立てている家族もたくさん見られ、公園の魅力を発信できたのではないかと考える。</p> <p>2. 「自然」「学び」「アート」をもっと楽しく、自由なものにする</p> <p>会場では、楽しそうにブースを回る子どもたちの姿がたくさん見受けられた。ブースでの体験を通し、楽しい学びを提供できたのではないかと考える。</p> <p>3. 地域の大人との出会いを作る</p> <p>当日のイベントでは、会場に来ている大人たちにインタビューする企画も実施した。子どもたちが進んでインタビューする姿も見受けられ、またインタビューを受けた大人にとっても「子どもたちからインタビューを受けて嬉しかった」などの声も聞くことができ、子どもと大人が関わるきっかけを作ることができたと考える。</p>						
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「自由研究」をテーマに、事前企画をより充実させる。 ・来場者を増やす。 ・企業協賛金を募り、よりイベントの充実を図る。 ・ブース出店数を増やす。 						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	ママも赤ちゃんも楽しめる ホット一息 ふれあい交流会
団体名	ママの働き方応援隊 阪神東校
活動地域	1 ()市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 尼崎市、伊丹市)
協働団体	
事業の目的・趣旨	<p>赤ちゃん連れではなかなか参加しにくいイベントも多いが、子連れでも参加できる場を作ることで、ママにホット一息楽しんでもらう。</p> <p>赤ちゃん連れの親子向けイベントを実施し、ママ同士や地域との繋がる場を作る。</p> <p>出産後も自身の得意を生かして活動するママたちとの交流により、参加したママたちが自分にも何かできるかもしれないと勇気付けられるような場を作る。</p>
事業内容	<p>『ママも赤ちゃんも楽しめる ホット一息ふれあい交流会』</p> <p>事前に SNS やチラシにてイベントの周知をはかった。</p> <p>おうちパン講座(おうちパンマイスター：松本純子さん・松江美沙恵さん) 珈琲講座(重村あゆみさん)</p> <p>当日はスタッフが赤ちゃん達を見守りしながら、ママたちには講座を受けてもらった。一緒に作業ができる子供さんはママと一緒にパン作りを楽しんでもらった。</p> <p>1 2020年2月20日(木) 会場：コミュニティースペース hinata 参加者 7組 (子供：0歳4ヵ月～2歳9ヵ月まで8人)</p> <p>2 2020年2月25日(火) 会場：コミュニティースペース hinata 参加者 6組 (子供：0歳4ヵ月～4歳5ヵ月まで6人)</p>

【事業の実施状況を示す写真】



	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	20	2	20	コミュニティ スペース hinata	ママも赤ちゃんも楽しめる ホッと一息ふれあい交流会	5人	15人
	20	2	25	コミュニティ スペース hinata	ママも赤ちゃんも楽しめる ホッと一息ふれあい交流会	5人	12人
目標の 達成状況	・参加者 各日5組 → 20日7組 25日6組						
事業効果	<p>SNSで告知すると、瞬く間に申し込みがありすぐに満席になった。</p> <p>ママたちのSNSでの情報収集力は高く、子連れでも条件さえ合えば行ってみようというパワフルなママも多いことが分かった。</p> <p>今回の会場は、阪急園田から徒歩3分という立地、フローリングで子供を自由に遊ばせられるなど、ママにとってベストな会場を使用することができた。</p> <p>講師自身も子連れということもあり、参加したママたちとも話が盛り上がりSNSなどで今後も繋がっていきそうである。</p> <p>講師のママも、産後自分のレベルアップのため資格を取得したり勉強したりしていて、参加したママへ素敵な刺激になっていた。</p> <p>アンケートで、また参加したい！との声が多く、有意義な時間になったのではと実感している。</p>						
今後の展望	<p>年間を通して、定期的にイベントを開催していきたい。</p> <p>定期的に開催することで、イベントの周知や講座内容の希望などを聞くことができ、より子育て中のママや地域に身近なイベントになればと思う。</p> <p>周囲には、子育て中だけど素敵なスキルを持っているママがたくさんいるので、小さな子がいるから…と奥手になるのではなく、一歩社会に出て繋がっていただける場を用意していきたいと考えている。</p>						

事業報告書

事業名	高齢者見守り事業～ふれあいサロンはなみずき会～
団体名	中難波婦人会
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	
事業の目的・趣旨	地域内においても高齢者の引きこもりが増加傾向にあるため、家に引きこもりがちな高齢者に積極的に声かけし、外出を促す。 参加者等から近隣住民 (特に独居老人) の近況情報を得ながら、住みよい地域にしていく。
事業内容	○近隣地域内の詐欺被害、防災情報等の伝達。 ○行事参加者より、近隣高齢者等の近況を聴取し状況把握に努める。 ○一人暮らしでは難しい年間伝統行事の開催。 笑う・歌う・聴く・聞く・作る・折る・ぬる・踊る等バランスよく実施。 地域行事への参加が増えるよう、高齢者・子供・若い人に積極的に声かけし、地域の伝統行事に触れ合う機会を増やした。 ○盆踊りに参加し易い様におどりの講習を実施。 ○夏祭りでの子ども太鼓練習の協力、神社境内のおみくじコーナーへの参加、秋祭りのバザー参加等により、地域の人たちとの絆を深めた。

【事業の実施状況を示す写真】



	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	19	7	14	八幡神社	子供太鼓練習協力	11	約 100
			15	〃	おみくじコーナーに協力	〃	〃
		8	24	〃	盆踊り参加	〃	〃
			25	〃	〃	〃	〃
		10	14	〃	秋祭りバザー参加	〃	〃
			15	〃	〃	〃	〃
	19	6	13	中難波福祉会館	淡海プロデュース（西岡剛）	11	50
			7	〃	ハンドベル聴いて歌う	〃	34
			9	〃	マジックショー	〃	38
			10	〃	落語を楽しむ	〃	45
			11	〃	エコテープでかご作り	〃	40
			12	〃	千支のぬり絵で壁掛け	〃	45
			20	1	23	〃	音楽療法士と楽しく歌う
2	〃	初踊りとお善哉を賞味			〃	50	
目標の 達成状況	<p>毎回、40～50名程度の参加者があった。</p> <p>積極的な参加呼びかけにより、家にひきこもりの高齢者が外に出る機会が増えた。</p> <p>毎回、手押し車で参加者が6～8名ありとても楽しみにしておられる。</p> <p>子ども・若い人（お祭り・盆踊り）の参加者が増えた。</p> <p>地域の人たちが町内外で出会った際に、挨拶をする機会が増えた。</p>						
事業効果	<p>毎月の行事開催には大変な苦勞があるが、役員一同の頑張りにより外部からの情報を取り入れ活用することが、上手になったように思う。</p> <p>行事のチラシを高齢者宅に訪問配付することにより、特に独居老人の近況を把握し地域内で見守ることができた。</p>						
今後の展望	<p>今まで以上に若い人に声かけし、地域の伝統行事に参加してもらえる様に努力することで、世代間交流が生まれ、地域の活性化に繋げたい。</p> <p>核家族化により、家で出来ない季節行事（七夕・豆まき等）を実施する。</p> <p>高齢者の見守り活動は今後も継続していきたい。</p> <p>住みよく活気のある町づくりに努めたい。</p>						

事業報告書

事業名	空き家対策事業
団体名	NPO法人 兵庫空き家相談センター
活動地域	1 ()市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 尼崎市・西宮市)
協働団体	なし 但し、各自治体、県等より後援協力をいただいている。
事業の 目的・趣旨	空き家の未然対策の重要性を広く市民に促し、長期放置の空き家の防止や、空き家の適正管理を所有者に行ってもらうことを目的とする。また、すでに空き家になってしまっている家屋や複雑化した法律関係については、個別相談に応じることで、問題を解決する為の働きかけをしていく。
事業内容	<p>令和1年12月26日実施分（尼崎女性センタートレピエ）</p> <p>1. セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家と税金（税理士） ・空き家を上手に売却するために（不動産コンサルティングマスター） ・空き家の利活用事例（一級建築士） <p>2. 市民向け個別相談</p> <p>同会場では、尼崎市住宅政策課にも参加いただき、尼崎市の空き家事業への取り組みを市民に向けて広報してもらいました。</p> <p>また、空き家問題に取り組んでいる尼崎市議会議員別府建一議員にも挨拶いただき、市民・行政・当NPO法人が一丸となって、同エリアの空き家を流通に戻す為の内容となっています。</p> <p>令和2年2月2日実施分（山口町公民館）</p> <p>1. セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を知ろう（宅地建物取引士） ・実家の片付けは出来ていますか（遺品整理士） ・じつはこんなに損してる！空き家と税金（税理士） ・不動産屋さんから見る空き家売却の現状（宅地建物取引士） <p>2. 市民向け個別相談</p> <p>同会場ではチラシ作成後に、セミナーの題名を変更して実施しております。</p> <p>セミナーテキストとして、ひょうご住まいづくり協議会作成の「損する空き家・損しない空き家」を使用し空き家しないための未然対策の重要性にポイントを絞った構成にしています。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	R1	12	10	尼崎市	チラシ作成および配布	10	28
			26		空き家対策セミナーおよび個別相談会実施		
	R2	1	10	西宮市	チラシ作成	12	8
		20	チラシ新聞折り込み				
		2	2		空き家対策セミナーおよび個別相談会実施		
目標の達成状況	今般開催のセミナーでは参加人数の達成は困難であったが、エリアを限定したこともあり、その地域に必要な情報を必要な人に届けるといふ、本来の空き家対策セミナーの目的は達成できたと考える。						
事業効果	参加人数の達成は困難であったが、今般のセミナーでは尼崎市においては、流通性が高い地域にも関わらず空き家になってしまっている所有者の抱える問題を当センター、行政、市民で共有することができた。 また西宮市については、山口町という未然対策が不可欠なエリアでセミナーを行うことにより、所有者の方への注意喚起、遺言を含めた生前対策の重要性を考えてもらうきっかけになったと考える。 事実、個別相談では両会場とも当日のセミナーを聞いて急遽申し込みをしてくれた参加者もいた。						
今後の展望	今後は、各エリアの抱える問題に沿った内容で、セミナーを通じて「空き家にしないため」の対策の重要性あるいは、利活用の実例などを知ってもらい、単なる空き家対策から、市民も巻き込んだ「まちづくり」「地域の活性化」を促していきたい。						

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	子育て中の保護者のネットワーク構築支援事業
団体名	NPO 法人日本タッチカウンセリング協会
活動地域	1 (西宮) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町 :)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	(目的)・子育て中の孤立解消と継続的な交流支援 ・「育てにくさ」の解決につながる講座の開催や、発達相談の場の提供 上記目的のために、当協会が専門とする心理学を取り入れたコミュニケーションの方法や、親と子が触れ合うマッサージ式のケア方法を学べる講座を継続的に開催し、母親同士が安心し、リラックスして話せる場の提供を行う。講座の中では心理士へ子育ての悩みを話せる機会を設け、発達相談の敷居を低くすることを目的とした。
事業内容	<p>1. 子育てリーダー講座の開催 (6/13・7/11・9/12・10/10・11/14・12/12 計6回開催) 協会認定タッチカウンセラーが子育てリーダー講座の講師として、心理学をベースにした「傾聴」や「伝えること」の講義を行った。参加者は少人数のグループのワークで学び、語り合うことで、日常の子育てが、子どもと関わる際の質の良い親子のコミュニケーションを実践の場となっていった。 参加者：28名</p> <p>2. タッチケア講座の開催 (1/16・2/13 計2回開催) 協会認定タッチカウンセラーが講師として、親子の愛着関係を形成するタッチケアの講座を開催した。タッチケアのテキストを配布しマッサージ方法を具体的に学び、講座の中でタッチケアする側も癒される感覚を実感してもらい、日々の子育ての負担を軽減できるようサポートを行った。 参加者：1/16 14名</p> <p>3. 保護者同士のネットワークづくりのサポート 定期的な講座の継続や交流会を開催することで、参加者同士が交流し、信頼しあいながら、互いに支え合える関係を構築できるよう交流促進を行った。</p> <p>4. 発達相談の実施 (1/16・2/13 実施) タッチケア講座の中で、発達心理士が同席し、気軽に子どもの発達について相談できる機会を作った。質疑応答コーナーでは、保護者からゲームへの依存や不登校気味になっている子どもへの対応について質問があり、参加者で共有しながら学びを深めることができた。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	19	6	13	市民交流センター	第1回子育てリーダー講座	4	26
	19	7	11	市民交流センター	第2回子育てリーダー講座	4	28
	19	9	12	市民交流センター	第3回子育てリーダー講座	4	25
	19	10	10	市民交流センター	第4回子育てリーダー講座	4	28
	19	11	14	市民交流センター	第5回子育てリーダー講座	4	23
	19	12	12	市民交流センター	第6回子育てリーダー講座	4	28
	20	1	16	市民交流センタ	第1回タッチケア講座	4	14
	20	1	16	市民交流センター	交流会（子育てカフェ）	2	10
	20	2	13	市民交流センター	第2回タッチケア講座	4	16
	20	2	13	市民交流センター	交流会（子育てカフェ）	2	12
目標の達成状況	<p>参加者数 子育てリーダー講座各回15名（保護者15名・子ども10名計25名） →講座申し込み人数28名</p> <p>タッチケア講座各回20名（保護者20名・子ども10名計30名） →タッチケア講座申し込み人数のべ30名</p> <p>リピーター数 子育てリーダー講座を受講後、子育てカフェ・タッチケア講座への 継続参加人数（10名）→継続人数12名</p>						
事業効果	<p>保護者向けの講座という、誰でも参加しやすく、また子育てに役立つケア方法を知ることができる講座をきっかけに、子育てに孤立しがちな層にアプローチが出来ました。</p> <p>また心理士への相談の場を設けることで、発達課題は不登校や引きこもりなど保護者のニーズを確認することが出来ました。</p> <p>継続した開催で、リピート参加を促すことにより、保護者同士の交流とネットワーク構築を図り、今後地域の中で「顔見知り」となった保護者が、交流を行い、保護者にとっては社会資源を増やすことにつながりました。</p>						

今後の展望	今年度の参加者が通いやすい西宮市民交流センターを拠点とし、子育て層を対象とした講座や交流会を定期的を開催することを予定しています。 また、今回心理士への相談の中で、不登校やゲーム依存などの質問が多く保護者の関心が高いことが分かったので、発達に関する勉強会の開催を検討していきたいです。
-------	---

【事業の実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	まちなみ発見パネル展&都市景観セミナー及び一般市民参加型まちあるき
団体名	西宮まちなみ発見倶楽部
活動地域	1 (兵庫県西宮)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	現状特になし
事業の目的・趣旨	<p>阪神・淡路大震災後、移住人口の逆転、集合住宅開発が増加、また地区によっては人口減少や少子高齢化、空き家の増加やコミュニティ維持が困難になる等の課題が浮き彫りになっています。一方、無電柱化や公共サインの整備、まちづくり協議会の活動によるまちなみ景観形成地域などあるものの一般住民への気づきには未だつながっていません。</p> <p>上記を踏まえ、私たちは西宮市だけでなく広く景観啓発に関する活動を行い、景観に関心を持つ地域住民を増やすとともに、魅力ある景観形成に寄与する活動を展開する決意です。</p>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・申請段階では、2月のパネル展及び同時開催のセミナーを計画していたが、北部図書館よりコラボ企画の話が持ち上がったことから、普段交流しにくい北部地域住民に向けて、昨年度の展示内容に加え、北部地域にちなんだ新しいパネルも作成して行うこととなった。2月のパネル展&セミナーのPRにも繋がると考えた。 ①パネル展 2019「まちなみで知る西宮の魅力」&まちなみカフェ in 塩瀬 <ul style="list-style-type: none"> ・西宮市は六甲山系を境に市域が南北に分断されている。その北部の中心地の一つ、塩瀬地区にある北部図書館とのコラボ企画として、パネル展&まちなみカフェを実施した。 ・壁面へのパネル取付が難しかったため、板段ボールによる自立型展示を行った。 ●パネル展 <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間：2019年11月26日(月)～2020年1月19日(日) ・開催場所：北部図書館ロビー（塩瀬センター2階） ・2018年度アクタ西宮にて展示したパネルの一部と、西宮まちなみ発見MAP作成予定の西宮市北部地域の写真を展示。 ●まちなみカフェ in 塩瀬 <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：2020年1月19日(日)（上記パネル展最終日） ・開催場所：塩瀬公民館第3・4会議室（塩瀬センター3階） ・倶楽部員より、阪神間モダニズムと景観、無電柱化に関する説明のあと、クイズを通して西宮市北部地域の景観に纏わる情報交換を実施した。 ②景観パネル展2020&セミナー「まちなみで知る西宮の魅力」 <ul style="list-style-type: none"> ●パネル展 <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間：2020年2月22日(土)～24日(月) ・開催場所：アクタ西宮東館2階 中央ひろば ・景観形成に関する啓発活動の一貫として写真パネル展を実施。1年間の活動の中を

通して行なってきた内容を元に、以下の4テーマによる展示を行なった。

- ◆西宮まちなみ発見倶楽部とは：倶楽部の活動経緯・活動目的の紹介、2019年度の活動一覧、各種活動状況
- ◆上ヶ原と景観：2019年度に改訂版を発行した西宮まちなみ発見MAPを元に、上ヶ原の高低差を実感するまちあるきや県西でのセミナーを実施した。その内容を元に、兵庫県立西宮高校、上ヶ原台地の成り立ちについて紹介した。
- ◆ヴォーリスと建築：上記まちあるきやセミナー、5月に訪問したヴォーリス記念館での研修などを元に、建築家ヴォーリスの生立ち、西宮市内外のヴォーリス建築の特徴を紹介した。
- ◆景観啓発ブース・まちにある「ふた」：街に点在する様々なマンホール蓋の種類・役割・景観との関係を紹介。マンホールへのイメージを収集する鑑賞者参加コーナーも設けた。

●セミナー

- ・開催期間：2020年2月24日(月)
- ・開催場所：西宮市民会館4階 中会議室401
- ・上記パネル展期間中に、パネル展と連動した二つのテーマによるセミナーを開催。新型コロナウイルス感染拡大が懸念される時期だったが、県内発症者はまだ報道されていなかったことから、兵庫県、西宮市の対応に準じ、スタッフはマスク着用、受付にてアルコール消毒液設置、体調不良の方の入場お断り等のアナウンスを行い、室内換気のため窓を開けるなど、できる限りの予防に努めた。少し物々しい雰囲気となった。
- ◆「ヴォーリスさんの建築探訪」藪秀実氏/ヴォーリス記念館 館長：建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリスの足跡と彼が残した建築（関西学院大学、神戸女学院ほか多数）について、様々な角度からお話頂いた。
- ◆「西宮の凹凸地形散歩を楽しもう！」新之介氏/大阪高低差学会 代表：大阪湾を囲む近畿圏の地形、六甲山や甲山の成り立ちからみる西宮の地形と景観についてお話いただいた。NHK『プラタモリ』にも出演した新之介さんであることから、定員80名（先着順）にも関わらず、2倍近くの参加希望者が詰めかけ、大勢の方に入場をお断りせざるを得ないほど盛況なセミナーとなった。

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数		
						スタッフ	参加者	
事業経過	2019	9	8	甲東公民館	パネル展 2019&まちなみカフェ in 塩瀬 内容検討	17名		
		10	19	甲東公民館		13名		
		11	24 ～ 26	塩瀬公民館	パネル展 2020&セミナー内容検討、パネル展 2019 展示物設置	12名		
		11	26	北部図書館ホール	パネル展 2019 開始(～1/19)	延べ約 40名	延べ約 200名	
	2020	12	7	神原公民館	パネル展 2020&セミナー 各テーマ別内容検討 (全体会議、担当別会議、その後各担当が展示パネルのデータ作成)	13名		
		12	7	市民活動センター		4名		
		12	17	市民活動センター		5名		
		12	23	中央公民館		5名		
		1	13	西宮浜公民館		12名		
		1	19	塩瀬公民館 第3・4会議室		まちなみカフェ in 塩瀬 開催	12名	10名
		2	9	今津公民館		パネル展 2020&セミナー 展示パネルの最終確認 セミナー役割分担	16名	
	2	19	西宮市情報センター	展示パネル印刷	4名			
	2	22 ～ 24	アクタ西宮東館 2階 中央ひろば	パネル展 2020 開催	延べ約 50名	延べ約 1,000名		
2	24	西宮市民会館4階 中会議室 401	セミナー 開催	17名	81名			
目標の 達成状況	<p>①パネル展 2019「まちなみで知る西宮の魅力」&まちなみカフェ in 塩瀬</p> <p>◆パネル展：北部地域の高齢化は、駅前店舗の縮小や空き家の増加に繋がっている。図書館も利用者がそれほど多くはない印象だった。施設の外壁改修のため足場が組まれていたり、天候不順も多かったせいかもしれない。</p> <p>倶楽部メンバーが当番に行けない日は北部図書館の担当職員が来場者の確認を行ってくれた。来場者のほぼ全員が、北部地域の景観写真展示コーナーに必ず足を留めて熱心に見ていたとの報告をいただいている。アンケート結果からも北部地域住民への景観意識の向上につながったと言える。</p> <p>◆まちなみカフェ：参加者は少なかったが、クイズという参加型の取り組みにより、楽しみながら景観への関心を高めることができた。ただし、「カフェ」という名称から、茶菓子が出るものと思われていた方もおられた。「まちなみカフェ」は今年度からの新しい取り組みである（まちなみについて気軽に語り合う場という位置付け）。まだ浸透には至っていないが、今後とも継続し広めていきたい。</p> <p>②景観パネル展 2020&セミナー「まちなみで知る西宮の魅力」</p> <p>◆パネル展：昨年度と同様3日間の開催だったが、アンケート回収数約 160 枚は昨年度より多く、実際の来場者も 1,000 名以上と推定される。熱心にパネルをご覧頂くことができ、倶楽部の紹介や景観啓発という目的は十二分に果たせたと思う。アンケート結果でも、かなり手ごたえのある回答が寄せられた。</p> <p>◆セミナー：お二人の講師が著名なことも有り、定員 80 名に対し 2 倍近くの参加希望</p>							

	<p>者が詰めかけ、入場をお断りせざるを得ない事態となったが、アンケート結果で、今後も参加したい方が90%以上にのぼった。開催目的からすれば大成功であったと言える。</p>
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ◆公開イベントを増やし倶楽部 PR：今年度は、昨年度に比べて極めて多くの活動を行うことが出来た。毎月の定例会はもちろん、パネル展、まちあるきやセミナーという公開イベントも大幅に実施回数を増やすとともに、新たに「まちなみカフェ」にも取り組み、倶楽部の露出度を高める効果があった。 ◆倶楽部メンバーのモチベーションアップ：倶楽部の公式活動とは別に、倶楽部員有志による視察やまちあるき、ミニさんぽなど、今後の倶楽部運営を考える上でもヒントになるような新たな活動も積極的に行うことが出来た。 ◆身近なテーマで関心向上：北部図書館のパネル展では北部地域の景観写真を展示し、アクタ西宮のパネル展では、西宮市とゆかりのある建築家ヴォーリズや、身近にあるマンホールと景観について取り上げた。ともに、関心を寄せる来場者が多く、景観啓発につながる効果が得られたと思われる。 ◆連動企画による相乗効果：セミナーでは、パネル展のテーマとの連動内容とし、初めて1回に2名の講師をお呼びした。著名な二人に登壇いただいたことで、目標人数をはるかに上回る結果となった。多くのメディアに取り上げていただいたことも大きかった。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ◆幅広い年齢層へのアプローチ：2018年7月の発足以来、少しずつ倶楽部の活動範囲を広げてきたが、開催したイベントやセミナー等への参加者について見ると、比較的年齢層が高く（50～70歳代中心）、若年層・子育て世代層の参加が少ない傾向にある。今後は、従来の参加者のみならず、若年層の参加も期待できるような企画を考えていきたい。 ◆参加型の企画：これまでのまちあるきやセミナーは、どちらかというに参加者に対して一方的な内容が多かった。今後は、参加者が参加した成果としてアウトプットが出せるような、相互交流的な仕組みや内容も必要だと考えている。 ◆西宮市から兵庫県、他府県へ：参加者の大半は西宮市民だが、神戸、芦屋、尼崎、宝塚など周辺自治体からの参加者も一定数いる。西宮市民に限定せず、兵庫県民、さらにエリアを広げて景観啓発活動を行うことで、「まちなみで知る西宮の魅力」を外からの目線でも再発見し、具体的な景観の取り組みを行う市民を増やせると考えている。 ◆収入源の確保：助成金に頼ってばかりでは活動に将来展望はない。活動経費を生む取り組みも必要である。蓄積された情報の活字化や動画配信、WEBとの連動などで応援団を増やすと同時に、収入に繋がるような仕掛けも考えていきたい。

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	里中町夏まつり
団体名	西宮市里中町自治会
活動地域	1 (西宮)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>西宮市里中町自治会は地域の少子高齢化に伴い、自治会活動への参加者が年々減少しており、地域コミュニティの形成に影響を及ぼしている。</p> <p>更に地域住民が一堂に会して多世代交流を図ることができる、自治会の主軸である「里中町夏まつり」の参加者も年々減少している。そうした現状を打開するため、里中町夏まつりが多世代の方々に、強く印象に残る「夏まつり」を目指すこと、更に若い世代にも里中町夏まつりを知ってもらうことで、「ちょっと参加」「ちょっとボランティア」を推進し将来の地域を担う人財育成を推進することを目的とした。</p>
事業内容	<p>1. 里中町 寿公園でのイベント (7月27日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもみこしの町内巡行 子どもがみこしを引っ張り町内を巡行 当日町内の子ども会、婦人部がスーパーボールすくい・輪投げ・たこ焼き等の店を出店した。 ・みやたんと盆踊り(7/27) 西宮市観光キャラクターみやたんを招いて盆踊りを盛り上げた。 当日盆踊りの途中にアイスキャンディを配布し大人も子どもと一緒に夏の涼しさを感じた。 <p>推定来場者数 600人 子どもみこし 60人 夜店 400人</p> <p>(7月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿波踊り(神戸楠公連の連員 36名参加) 当日は公園南側の道路を通行止めし踊り込み後 公園の櫓前広場で構成踊り、その後櫓の周りを総踊りをした。 総踊りには町内外の一般、若者、女子大生等々総勢 300人が参加 本場徳島の阿波踊りにも匹敵するくらいの人が輪の中に入ってきた。 ・多世代に強く印象に残る「夏まつり」の仕掛け

	<p>1) 女子大生を司会に起用し、先ずまつりそのものに若者らしい演出をした。</p> <p>2) 武庫川女子大の学生6名に祭りに参加してもらい、アンケートをお願いし、これからの夏まつりの企画運営の参考にすることにした。</p> <p>3) 総踊りに参加してもらった人に徳島特産のすだちを配布した。</p> <p>4) 西宮市の観光キャラクターみやたんも登場しさらに盛り上げた。</p> <p>推定来場者数 900 人 阿波踊りの総踊り参加数 300 人 すだち配布 100 セット</p>						
事業経過	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
	19	6	15	里中町自治会館	代議委員会(夏祭り中心)	6	30
			22	里中町自治会館	夏まつり実行委員会開催	6	41
	7		25	里中町寿公園	夏まつり準備 (会場設営・食材、飲料他搬入等)	12	70
			26				
	7		27	里中町寿公園	子どもみこし	14	46
					みやたと遊ぼう 盆踊り 夜店・屋台	10 20	40 150
	7		28		みやたと遊ぼう 阿波踊り (踊り込み～構成踊り～総踊り)	10 36	40 300
					盆踊り・みやたん 夜店・屋台	20	200
7		29		夏まつり後片付け (櫓・テントの解体・提灯の取り外し等々)	12	60	
目標の達成状況	<p>(当初予定数) (概算実績数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阿波踊りと総踊り 80 人 ⇒ 300 人 ・ 阿波踊りと盆踊りのコラボ 100 人 ⇒ 200 人 ・ 西宮市キャラクターみやたと遊ぼう(2日間) 100 人 ⇒ 100 人 ・ 子どもみこし 20 人 ⇒ 60 人 						

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供会の夜店(2日間) 100人 ⇒ 500人 ・ 各部会による夜店、屋台(2日間) 400人 ⇒ 800人 ・ アイスキャンディ配布(2日間) 900本 ⇒ 1200本 <p>※推定総来場者数は例年より30%以上は増加している模様です。</p>
事業効果	<p>多世代の人に強く印象に残る「夏まつり」と、若者を行事に関わってもらおう仕掛けは、達成できた。多くの人から阿波踊りを観て、さらに一緒になって踊れたのには、鳥肌が立つくらい感動したという言葉を受けた。若者を取り込む仕掛けについても、司会者に地元在住の女子大生を起用し、さらに地元の武庫川女子大の学生6名には、28日の阿波踊り、盆踊りに実際参加してもらい、「夏まつり」全体を見渡し、体感してもらった。そのことは、今後の地域活性化へのステップアップとなった。</p> <p>また総踊りの一般参加者 先着100名に徳島の特産である「スダチ」を配布したのも、まつりへのインパクトと「夏まつり」を強く印象付ける一定の効果があった。</p>
今後の展望	<p>今回準備の段階においても、子ども会のお父さん、近くの居酒屋さんの従業員さん 男子大学生延べ10人に手伝ってもらった。</p> <p>今後はシニア層・高齢者だけではなく、地元の若者、30代~40代の勤め人にも夏まつりの企画・運営・準備等々にも携わってもらい、「ちょっと参加」「ちょっとボランティア」を広く推進することを考えている。</p> <p>来年度は今年の夏まつりのアンケート結果を踏まえ、更に充実したイベントを企画し自活できる運営を目指したい。</p>

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

団体名	越木岩青年会						
事業名	第45回 サマーフェスティバル・イン越木岩 における地域PR事業						
活動地域 (いずれかに○)	1 (西宮)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)						
協働団体							
事業の 目的・趣旨	<p>地域住民が集まるこの夏祭りで広報活動を行うことで、越木岩青年会の存在を知らしめ、越木岩青年会へのきっかけを増やす機会を作ることで会員の増員を図りたい。</p> <p>また、地域住民へ各種団体の活動をPRするブースも設け、この地域で活動している地域団体の存在を知らしめることで越木岩地区に愛着、羨望を持ってもらい、人口の流入ならびに越木岩在住人員の流出の防止を図る。</p>						
事業内容	<p>会場内の一部にPRブースを設け、越木岩青年会ならびに越木岩地区内で活躍する団体の活動に関する広告媒体を設置し、配布した。</p> <p>また、ポスター等の掲示物の掲示箇所も設置し、休憩スペースを併設することで、掲示物を落ち着いて長い時間見てもらえるよう工夫した。</p> <p>出展6団体 越木岩青年会、北夙川地区青少年愛護協議会、日本ボーイスカウト13団、神戸教育短期大学 地域活性化団体 エネルギー、越木岩地車保存会、苦楽園ストアーズミーティング</p>						
事業経過	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
	'19	6	5	越木岩公民館	各団体への説明会	6	1,000
		7	17	越木岩公民館	各団体への説明会	6	
		7	27	北夙川小学校	会場設営	10	
	8	3,4	北夙川小学校	サマーフェスティバル・イン越木岩	35		
		10	北夙川小学校	全体片付け	4		

<p>目標の達成状況</p>	<p>PRコーナー出店団体 : 全参加団体20団体中6団体と、目標には届きませんでした。</p> <p>告知資料配布枚数 : チラシ5,000枚を予定しておりましたが、より充実した内容を図る目的で冊子の作成に変更し、1,000冊を配布しました。</p> <p>来場者数 : 2日間延べで約1,000人と推定 (サマーフェスティバル会場全体は延べ10,000人)</p>
<p>事業効果</p>	<p>来場者への告知を積極的に働きかけることで、この地域の連帯感を感じ、各団体への理解を深め、ひいては越木岩地域への郷土愛を高めることにつながった。およそ1,000人がPRコーナーを訪れ、地域団体の活動について知ってもらえたことで、地域活動参加へのきっかけを提供することができた。</p> <p>また、これが地元意識の高揚に繋がり、地元に住まりたい気持ちを育て、またこの地域へのUターン就職へのきっかけとなることが期待できる。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>目標を立てていた出店団体の6割には届かなかったのは残念だったので、初めての取り組みを継続して、各種団体それぞれから地域をPRする流れを作りたい。</p> <p>また、地元意識の高揚を図って大学受験時や就職活動時といったきっかけで地域からの流出を防ぐことや、地域外に離れてもいつかまた住みたいという気持ちを持たせることで、越木岩青年会の充実、延いては越木岩地区の繁栄に寄与したい。</p>

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

団体名	彩線会
事業名	阪神南ふるさと（冬の陣）活性化応援
活動地域	1 （ ）市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 （対象市町： 尼崎市・西宮市・芦屋市 ）
協働団体	甲子連・にしき連
事業の 目的・趣旨	高齢化によって地域から活力が失われつつある。 老若男女を問わず、「踊り」や「唄」に触れ、活気を呼び起こすとともに、手話や折り紙口座を通じて、認知症対策も実施する。
事業内容	<p>阪神南地域の様々な行事に出演し、また8月24日と1月25日に「夏の陣」、「冬の陣」として民謡や阿波踊り、手話や折り紙講座などを実施した。なお、夏の陣については当初は西宮市での開催を予定していたが、会場が確保できずに神戸市内のよみうり文化ホールとなった。</p> <p>以下内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阿波踊り 徳島麦打ち、ひばりの花売娘、津軽甚句など ・ 三味線合奏 さくらさくら、祇園小唄、黒田節 ・ 民謡 さんさ時雨、津軽じょんがら女節 ・ 詩吟 ・ 手話 いい日旅立ちの歌詞を手話で歌う ・ 折り紙講座

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	2019	6	7	甲陽園市民館	創作阿波踊り	7	60
		8	24	よみうり神戸文化センター	夏の陣：阿波踊り、民謡、三味線、折り紙、手話など	10	100
		9	8	むつみ会ホーム	創作阿波踊り、手話など	6	100
			17	芦屋市竹園町	創作阿波踊りなど	7	80
		10	24	西宮市甲陽園	創作阿波踊りなど	7	63
		10	27	西宮市	浜甲祭りに参加	13	1000
		11	25	尼崎市介護施設	創作阿波踊りなど	7	20
	2020	1	9	西宮市七番町団地	創作阿波踊りなど	6	74
		1	25	越木岩ホール	冬の陣：阿波踊り、折り紙、手話など	10	100
目標の達成状況	夏の陣、冬の陣を主催し、また多数のイベントに主演し、1,000以上の参加者に踊りや民謡を楽しんでもらえた。						
事業効果	<p>多くの方々に踊りや民謡を楽しんでもらえたことで、地域に活気を呼び起こす一助となれた。</p> <p>また、手話や折り紙講座をプログラムに組み込むことで、認知症予防なども図ることが出来た。</p> <p>なお、夏の陣は神戸市内での開催となったが、参加者は西宮市・芦屋市の方が大半であり、阪神南地域の活性化に繋がるものであった。</p>						
今後の展望	<p>アンコールが掛けられることもあり、参加者に楽しんで貰えたとともに、メンバーにとっても非常に楽しめた一年となった。</p> <p>今後も、手足の運動などをプログラムに取り入れるなど、高齢者の元気づくりに寄与できるような活動をつづけていきたい。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	第6回廣田神社浪曲寄席
団体名	西宮浪曲を楽しむ会
活動地域	1 (西宮市)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	
事業の目的・趣旨	高齢化社会が進行し、高齢者の地域社会に出かける機会が少なくなっている。また高齢者同士が交流をする機会も少なくなっている。この現状を打開するため、比較的低額で身近な場所で浪曲を鑑賞できる機会を提供し、高齢者に生きがいと元気を与えることを目的に開催した。
事業内容	<p>★浪曲師による浪曲寄席を低廉な価格で一般市民に提供した。</p> <p>★(公社)浪曲親友協会(関西の浪曲師・曲師が所属する団体)より、次の演芸家の派遣を受け浪曲寄席を開催した。</p> <p>*浪曲師:浪花亭 友歌、天光軒 満月</p> <p>*曲師(三味線):虹 友美</p> <p>*演出と案内役:芦川 淳平</p> <p>*拍子木:坂本 実千子</p> <p>聴講者数122人</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	19	4	25	西宮市役所	西宮市長・西宮市文化振興財団・西宮市教育委員会へ後援申請書提出	2	
	19	6		協賛依頼各社	各社を訪問し依頼。	2	
	19	7		西宮市文化振興財団ほか	公共施設(35施設)のほか、各種団体(老人連合会ほか)へチラシ布置を依頼。	3	
	19	8		読売新聞阪神支局ほか	日刊5紙、情報誌への掲載依頼(訪問・郵送)	2	
	19	8	23	伊丹郵便局	過去の来場者を中心にDMを発送(117通)し開催案内。	1	
	19	8	29	神戸市内	公演について3役打ち合せ会	3	
	19	9		団体活動場所	施設などで活動している団体(健康体操教室など)を、訪問	2	

	19	10	5	西宮市広田町 7-7 廣田神 社（参集殿）	して開催案内した。 （公社）浪曲親友協会より浪曲 師ほかの派遣を得て「第6回廣 田神社浪曲寄席」を開催した。 ★出演者と演目 ・浪花亭友歌：神田松 ・天光軒満月：父帰る ・曲師（三味線）：虹友美 ・案内役：芦川淳平（浪曲作家） ・拍子木：坂本実千子	9	122
	19	10	5	西宮市内	公演についての反省打ち合せ 会	3	16
目標の 達成状況	当日は、小学校の運動会、西宮市と商工会議所がおこなう秋の一大イベント「酒蔵ルネサンス」と重なったため来場者が低調をとどめた。目標の100人（有料入場者）には届かなかったもののPR方法を工夫（日刊5紙・情報誌へ掲載）したことで近隣市（尼崎市など）からの来場者もあり身近に浪曲を楽しんでもらう場の提供はできたものと思われる。						
事業効果	会場でのお手伝いをさせていただく方を、会場周辺の住民の方々の協力が得られたことで、来場者との顔見知りもあり開演前には和やかな雰囲気でも話も弾んでいた。終演後も会場内で来場者同士あるいは演者との交流（質問等）も図られ来場者には満足なものとなった。						
今後の 展望	資金面では、当初予定の企業協賛を10社と予定していたが努力した結果、13社の協賛が得られた。今後も賛同企業の増に努め健全運営ができるよう頑張りたい。お手伝いいただいた方々の力も借りながら、日常でのPR活動により参加者の増を図り、現代社会が失いかけている心の通い合う地域社会づくりを目指すこととする。						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	高齢者のフレイル対策と居場所創出のための事業
団体名	ウェルネス サポート
活動地域	(芦屋) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	無し
事業の 目的・趣旨	外出や交流の機会、地域における社会的役割や居場所を持つきっかけをすることにより、生き生きとした生活を実現する。また、その「居場所」で効果的な運動指導を行うことにより、筋力の低下を防ぎ、フレイル対策をはかる。これらのことにより、健康寿命延伸につながり、2025年問題の解決策の一つとなる。
事業内容	<p>1. 市内ウォーキングコースのゴミ拾いイベントを開催。当日、開始前に、ウォーキングアップのための実技指導。</p> <p>ウォーキング前に、開催目的を共有し、フレイル予防の大切さ、居場所の大切さを再確認した後、ストレッチを行った。各自コミュニケーションを取りながら、芦屋中央公園北東出入口付近からスタートして宮川を渡り、兵庫県立芦屋国際中等教育学校の北東角まで歩き、右折した。浜風通りを歩き続けて運河にかかる橋の真ん中辺りを折り返し地点とした。その場で、体に良い歩き方、使い方を指導。その後、引き続き会話を楽しみながらゴミを拾ってスタート地点に戻った。</p> <p>早速、新しいコミュニティが立ち上がり、参加者1人を除き全員、会終了後に地域の飲食店で、今回のイベントを振り返り、集客やチラシ配布など手分けして行うことになった。また、交流を深め、Facebookでも互いに繋がり、同グループ主催での山登りや楽なランニングの企画提案があった。</p> <p>2. フレイル対策のための講演会、実技指導。</p> <p>会冒頭に、イベントを通じて交流を深めていただき、新しいコミュニティが立ち上がることを期待している旨伝えた。</p> <p>フレイル予防の大切さ、居場所の大切さについてパワーポイントを用いて15分間の講義を行った。その後、喉の体操(20分)、体の体操(20分)の実技指導を行った。</p> <p>会終了後も各々交流を深めていたため、一部の方とイベントの振り返り会を行い、次回開催に向けた積極的な意見が飛び交った。それぞれの地域でイベントのチラシを配布していただくこととなった。</p> <p>3. フレイル対策など予防に特化した運動指導。</p> <p>一部の参加者が受付や案内を積極的に担当</p> <p>会冒頭に、イベントを通じて交流を深めていただき、新しいコミュニティが立</p>

ち上がることを期待している旨伝えた。
 喉の体操（25分）、体の体操（25分）の実技指導を行った。
 会終了後も、各々交流を深めていたため、一部の方とイベントの振り返り会を行い、次回開催に向けた積極的な意見が飛び交った。

4. フレイル対策など予防に特化した運動教室を定期開催するための体験会
 前回の参加者が受付や案内を積極的に担当。
 会冒頭に、2025年問題や医療費削減の問題について話し、健康的に過ごすためには「人と会うこと」「食事をしっかりとる事」「喉や体の体操」の3つが大切であると伝えた。
 より実践的な、喉の体操指導（25分）、体の体操（25分）の実技指導を行った。
 今後は、喉や体の体操を日常的に行うことや、参加者同士での集いを提案。難しい方向けに、同会場での「運動教室」を設けていることを案内した。運動教室は、同会場で毎週金曜日の午前に開催する。
 会終了後に振り返り会を行った。次回企画の際には参加者の9割以上の方に声をかけることとなった。また、時期は未定であるが今後、それぞれの地域にうかがってフレイル予防を啓発する企画案も出た。

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	19	06	09	ウォーキングコース	体操、ゴミ拾いイベント	3名	6名
	19	07	14	リードあしや	フレイル予防（嚥下障害予防）のための講演会、実技指導	3名	約20名
	19	08	18	リードあしや	運動指導	3名	約25名
	19	09	22	リードあしや	運動教室体験会	3名	約25名
目標の達成状況	<p>参加者の口コミで広がり、申込は右肩上がりであった。第4回では、申込者は約40名であった。（最寄り駅が電車運転見合わせ、台風接近のため暴風、小雨などで欠席の連絡が相次ぎ、実際には約25名である。） フレイル予防の大切さを感じ、自分だけではなく、周囲の方にも伝えたいという感想が多く寄せられ、目標は十分達成できた。また、いくつかのグループ誕生し、居場所創出の観点からも目標は達成できた。 参加者が受付や案内を自ら率先して担当するなど、スタッフと参加者が一体となったイベントでした。次回の企画の際には声をかけてほしいと9割ほどの方が希望され、小規模ながら達成率は高いといえる。</p>						

事業効果	フレイル予防というキーワードに関心を寄せられた方が多かった。自身のためだけではなく、周囲の方に習ったことを伝えたいという方も非常に多く、参加者数以上の効果があった。また、新しい友人やグループができ、連絡先を交換したり、Facebook で繋がったりと、交流されているケースも見受けられ、一定の効果があった。各地域、各グループでの波及効果が考えられる。
今後の展望	喉や体の体操教室を同施設で定期的で開催し、集い、交流を深めていただく。また、教室で習ったことを、伝えたいという方が多いため、その方々が主体となった新たな集いの場が創出されるようにサポートしたい。

【事業実施状況を示す写真】

